

2024（令和6）年度

学校道徳教育集録

1年間の実践報告(あゆみ)



石川県学校道徳教育研究会

はじめに

石川県学校道徳教育研究会
会長 柴田和美

今の時代は、VUCAの時代であると言われます。VUCAとは、「変動的で不確実、複雑で曖昧」を意味し、目まぐるしく変化する予測困難な状況を指すそうです。子どもたちを取り巻く環境の変化も激しさを増しています。より良い方向への変化を願い、学校全体で努力する毎日ではありますが、残念ながら、希薄な人間関係、情報過多などの様々な要因から、不登校の増加等、今抱えている問題解決の糸口がなかなか見いだせない状況にあります。予測困難なこの時代、私たち教師はどこに向かって、何を大事に子どもたちに向き合っていけばいいのでしょうか。教師自身もまた、変化の激しさに戸惑っている部分があるように感じます。

そんな中、令和5年6月に、2040年以降の社会を見据えて、『教育振興基本計画』が示されました。そこには、大きな二つのコンセプトとして、「持続可能な社会の創り手の育成」及び「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」が掲げられています。そして、「道徳教育」については、以下のような記載があります。

「自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した一人の人間として他者と共によりよく生きるために基盤となる道徳性を養うため、『特別の教科 道徳』を要とした道徳教育を推進する。」

この記述を読むと、どのように時代が変わっても、やはり、「道徳性は、よりよく生きるために基盤なのだ」と再認識させられます。そして、道徳性は、今求められている持続可能な社会の創り手の育成のためにも、ウェルビーイングの向上のためにも欠かせないものであり、また、今後、時代がどのように変化しても、その大切さは不易なのだと思います。

石川県は、教育委員会の「いしかわ道徳教育推進事業」に象徴されるように、長年、道徳教育を大切にする文化があります。そのおかげで、県内の先生方は道徳教育の必要性を認識し、とても熱心に授業改善に取り組んでくださっています。本研究会においても、今年度も多くの授業研究がなされ、授業の質的改善に向けての議論が展開されました。また、各地で学習会を開催したり、意欲のある若手に中央への研修機会を与えたりしたことで、これから道徳教育を推進する人材育成にも貢献することができました。熟達した教師が減少する今の時代においては、これまで以上に、「熱意と指導力の伝承」ということが大切になってくると思います。今年度は、そのことも考え、研究会の運営について改善したところもあります。働き方改革の波もある中で、本研究会がその使命を果たすためにどのような形で活動していくことがよいのか、今後もその点をよく考え、微力ながら力を尽くしてまいる所存です。今後とも、引き続き、本研究会にご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、今年度も、石川県教育委員会、各市町教育委員会、関係諸機関の皆様、そして、県内各地区で道徳教育に関わられた先生方、本研究会事務局の皆様より、多くのご指導とご支援を賜りました。そのおかげで、令和6年度の活動を無事終えることができました。多方面からのお支えに心より感謝を申し上げます。ありがとうございました。

令和6年度研究集録 目次

・はじめに

・本年度 学道研の主な活動

1 地区大会

①小松地区大会 加賀市

②金沢地区大会 白山市

③能登地区大会 羽咋郡

2 地区だより

①珠洲市 ②輪島市 ③鳳珠郡 ④七尾市

⑤鹿島郡 ⑥羽咋市 ⑦羽咋郡

⑧河北郡市（小） ⑨河北郡市（中）

⑩金沢市（小） ⑪金沢市（中） ⑫野々市市

⑬白山市 ⑭能美市 ⑮小松市 ⑯加賀市

3 全国大会・中部地区大会報告

①全小道夏季中央研修講座（8月）

②全小道研中部地区小学校道徳研究大会 岐阜大会（11月）

③その他の大変、理事会等

・本年度石川県学校道徳教育研究会組織表

令和6年度 石川県学校道徳教育研究会の主な活動

1 研究組織

本会は、通称「学道研」と呼び、各地区の道徳研究会からなる役員、理事、幹事を中心に小・中合同で県下の道徳教育の推進・発展に努めている。

2 研究主題

「ふるさとの大地と人に学び、心を耕し、未来を拓く道徳教育の創造」
～子どもの心に響き、心の力を育む道徳の学習～

3 研究活動

- ①地区大会 小松地区大会 11月29日（金）加賀市立勅使小学校
金沢地区大会 11月 5日（火）金沢市立高岡中学校
能登地区大会 11月 26日（火）宝達志水町立相見小学校
- ②全小道中部地区大会岐阜大会
11月 1日（金） 志賀町立志賀小学校 教諭 細口 真季
志賀町立志賀小学校 教頭 中越 眞澄
宝達志水町立宝達小学校 教頭 石井 優子

4 広報活動

研究集録作成

5 理事研修会の実施

今年度は、2回の研修会をもって県内の道徳教育の活性化を図った。

第1回 理事研修会・総会

- 6月 7日
 - ・R6年度役員選出、事業計画と予算審議
 - ・道徳の授業づくり等の情報交換

第2回 理事研修会

- 12月 26日
 - ・R6年度各地区活動内容交流、次年度の予定、役員選考

①小松地区大会

令和6年度小松地区大会は、加賀市学校教育会小中学校道徳部授業研修会と兼ねて実施した。公開授業、授業整理会、岐阜聖徳学園大学 山田貞二 教授のご講演という流れで行った。詳細は以下の通りである。

日 時：令和6年11月29日（金）

会 場：加賀市立勅使小学校

第1学年 道徳科学習指導案

日 時：令和6年11月29日（金）第5限

指導者：山田 光莉

1 教材名 あのね

2 主題名 うそやごまかしをしない

3 内容項目 A 正直 誠実

4 本時のねらい

正直でいることの大切さを理解し、うそやごまかしのない正直な心で生活しようとする道徳的意欲と態度を育てる。

5 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値

低学年の段階においては、発達的特質から、特に自分自身の言動を他者から叱られたり笑われたりすることから逃れようとする気持ちが働くことが少なくない。そのために、うそを言ったりごまかしをしたりして暗い心になることが見受けられる。いけないことをしてしまったときには素直にその非を認め、あやまることができるとともに、人の失敗を責めたり笑ったりしないようにし、正直で素直に伸び伸びと生活できる態度を養うようにすることが求められる。

(2) 児童の実態

本学級は、素直で自分の思ったことを積極的に話す子が多いが、たまにうそについて自分のやってしまったことを言えないことがある。うそをつくことは良くないという認識はあるものの、ついついうそをついてしまう様子が見られる。1学期には正直・誠実の内容項目で「くまさんのおちゃかい」をした。その時は、うそをつかず、本当のことを言ったほうが良いことに気づいていた。ただ、その後もうそやごまかしはいけないと分かっていてもうそをついてしまう場面は見られるため、正直でいることの良さについていっしょに考える必要がある。

(3) 教材について

本教材は、『チッチは友だちトービーの赤い車のおもちゃをとってしまう。トービーに「赤い車知らない？」と聞かれるが、とっさに「知らない！」とうそをついてしまう。そのせいで胸がちくちくして楽しく過ごすことができない中、トービーに優しくしてもらったチッチは赤い車のことを正直に話した。すると実はトービーもお兄ちゃんのおもちゃを勝手に持ち出していたことを告白した』というお話である。

赤い車をとったことを言えずに胸が痛むチッチの気持ちと、なぜ思い切って正直に言えたのかを考えることで「正直に言うと自分の心がすっきりする良さ」を感じることができ、本時のねらいにつながる教材であると考えた。

そこで、指導に当たっては、「正直に言うことは怒られたり笑われたりすることから逃げるではなく、自分の気持ちがすっきりするからである」ということに気付かせたい。そのため、「チッチはどうすると思う？正直にいう？いわない？」を中心發問として、円座の対話を通してみんなでじっくり考えさせる。11人で円になって話す時間を設けることで、全員で考え、議論できるようにする。そして正直でいようとする道徳的意欲と態度を育てたい。

6 本時の学習

(1) 準備・資料等 場面絵、事前アンケート

(2) 展開

配時	主な学習活動と児童の思考の流れ (◎中心発問)	指導上の留意点 (・)
つかむ5分	<p>1. 「正直」について考える。</p> <p>○正直に言ったことはありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ある！弟のおもちゃを使ってないと嘘をついたけど、後から正直に使ったことを言ったことがあったよ。 自分が汚してしまったのに、自分じゃないと言ってしまった。その後は本当のことが言えなくてつらかったな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"><しょうじきになると…></div>	<ul style="list-style-type: none"> 事前アンケートをとり、うそをついてしまった経験、その後どうしたか、どんな気持ちだったかを紹介する。 正直でいることはいいことだと思いながらもできない場面があることに共感しながら、本時の道徳的価値への方向付けをする。
考える30分	<p>2. 範読を聴く。</p> <p>○チッチは正直に言えたのかどうか考えながらお話を聴きましょう。</p> <p>3. チッチの気持ちを考え、話し合う。</p> <p>○赤い車を見つけた時、チッチはどんな気持ちだったと思う？</p> <ul style="list-style-type: none"> かっこいい！ ほしい！ 落とし物かな？ <p>○むねがちくちく痛むのは、なんでだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 怒られてしまうと思ったから。 友だちでいられなくなると思ったから。 赤い車をとったことを言えないから。 うそをついてしまったから。 <p>○自分がチッチだったら、どうしますか。正直に言う？言わない？</p> <p>①自分の考えに近い所に名前マグネットをはる。</p> <p>②全員で円になって、自分の考え方と理由を話す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 怒ってケンカするのはいやだから言わずにそっと返しておく。 正直にいうと怒られてしまうかもしれないから、機嫌がいい時をみて言う。 	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物とその状況を理解することができるよう、教材のあらすじの大体をおさえる。 場面絵を提示しながら範読し、登場人物の心情を考えられるようにする。 トービーがとげをぬこうとチッチの家へくる場面まで読む。 <p>・ちくちく痛む理由を考えるとともに、正直に言えないときのチッチの気持ちに共感できるようにする。</p> <p>・正直に「言う」「言わない」の二つの立場に立って、多面的・多角的に考えられるようにする。【見方・考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> 名前マグネットをはることで、自分と似ている考え方の友だち、違う考え方の友だちが視覚的に分かるようにする。 名前マグネットの位置から、児童がさまざまな立場の考え方をきけるようにコーディネートしながら話し合いを進める。 円になって考え方を共有することで児童同士が対等な立場で話し、聴きやすくなる。

	<ul style="list-style-type: none"> ずっとモヤモヤるのはいやだから正直に言う。 言わなかつたらまた同じことを繰り返しそうだから、正直に言う。 <p>○正直に言えたチッチのことをみんなはどう思う？</p> <ul style="list-style-type: none"> あやまることができてよかったです。 勇気を出して言えたからすごいと思う。 正直に言って、心のちくちくがなくなつたからよかったです。 友だちにも自分にも正直になれてえらいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達の考えを聴いて、自分の考えを変えてよいことを伝え、途中でマグネット移動タイムをとる。 「ごまかしてしまおう」や「黙っていても…」という問い合わせ返しをすることで、正直でいることの難しさに気づかせる。 「正直に言う」の方に偏った場合は、人間的な弱さの部分にも着目させ、反対の意見を引き出す。それでも出ない場合は、事前アンケートの「うそをついてしまったエピソード」を出す。 「チッチはどうしたと思う？」と聞き、物語を最後まで読み、自分たちの考えと比較させる。 正直に言う時と言わない時を対比させるように板書することで、正直に言うと心がすっきりすることに気づかせる。
まとめる 10分	<p>4. 本時の学習内容を振り返る。</p> <p>○今日の振り返りを書こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 正直にいうことは自分のきもちがすっきりするからいいんだと思いました。 正直になると、心の中がすっきりする。うそをついてしまうと、心の中もいやな気もちになる。 まだすぐに正直に言えるか自信がないけど、正直になるのは大事だと思いました。 友だちの「しかられるなら、正直に言ってしかられた方がいい」という考えがいいなと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでの自分をふりかえりながら書けるようにアンケートを返却したり、これからはどうしたいかといったふりかえりの視点を与えてたりする。 【見方・考え方】 ふりかえりには、今日学んだことだけでなく、自分の弱いところや友だちの考えのよかったですなども書いてよいことを伝える。 ふりかえりを集めて読み上げる。

(3) 評価の観点

チッチがうそをついたときの心の痛みに共感し、正直でいることの良さを考えることができたか。

7 板書計画

あのね <しょうじきになると…>

チッチはどうするとおもう？

しょうじきにいわない		しょうじきにいう						
<ul style="list-style-type: none"> おこられるかもしれない なかをわるくしたくない 						<ul style="list-style-type: none"> ずっともやもやするのはいや またおなじことをくりかえすかもしれない 		スッキリ！ いいきもち！
<ul style="list-style-type: none"> ずっともやもやするのはいや またおなじことをくりかえすかもしれない 		スッキリ！ いいきもち！						

【授業整理会】2つの視点をもとに、授業整理会を行った。

視点① ねらいにせまる授業構想と発問の工夫

教師の問い合わせやゆさぶり、導入から教材文へ・教材文から自覚化へのつなぎなどがねらいにせまるものになっていたか。

- ・事前アンケートをしたことでスムーズに教材にいけたと思う。自分→教材で終わってしまったので、自分自身について考えるためにアンケートに戻して、充実させたらよかったです。
- ・授業のはじめから「正直」という方向性を示しているのでプレがなかった。
- ・所々で「自分だったら？」「みんなだったら？」「同じようなことある？」と子どもにかんがえさせていたところがよかったです。
- ・資料を途中で切らずに、最後まで読んでから自分ごとにもっていく方が思考の流れがスムーズだったのではないかと思う。
- ・お話を途中で切る必要があったのか疑問である。切らなくても迫ることはできる。自分の予想の当てっこになってしまふ。
- ・怒られる・褒められる等の外発的動機づけから抜け出すことが難しいと感じた。「すっきり」のワードについて深く聞いていたらよい。
- ・正直に言うと「すっきりする」・「良いことがある」を「どうして？」「どんな？」で教師がもっとつっこんで聞いたらよかったです。
- ・子どもは終始「すっきり」と言っていたが、すっきりの中身が大事。本当はそこが肝である。「すっきりって？」と問い合わせて深めたい。
- ・「なんでチッチは言ったのか？」「すっきりってどういうこと？」と深めたらいい。

視点② 子どもの考えが深まる手立ての工夫

ICTやそれ以外のものを活用したり、協働的な学びの場（対話・話し合い）の設定をしたりしたことかが、考えを深めるのに有効だったか。

- ・自分の立場をマグネットで明確にし、さらに友達の考えを聴いて、マグネットを移動させる時間があることで、考えを深め、自分に向き合えてたと思う。何でマグネットの位置が変わったのか深く聞いたらよいと思う。
- ・話し合いの形態が円になっていたところがよかったです。友達の考えをうーんと考えながら聞く姿勢もよかったです。
- ・円になって話すことで空気感が変わった。
- ・自分の経験をもとにのびのびと語る子どもの姿がとてもよかったです。日頃からの指導や先生や友達同士との人間関係や信頼関係があるからであり素晴らしい。
- ・子どもの小さなつぶやきやネームカードの移動を教師がとらえていたところが素晴らしい。

【講演会】

講師 岐阜聖徳学園大学 教授 山田 貞二 氏

演題 うれしい、楽しい、道徳大好き！～「考え方、議論する道徳」への転換～

<参加者からの感想>

- ・発問の類型や深化発問など、自分自身も授業する際に毎回悩む部分のお話を聞くことができてとても勉強になりました。
- ・山田貞二先生のご講演でも考え方議論する授業にするためのポイントを教えていただき大変勉強になりました。協働的な学びがある授業は道徳でも同様に求められ、多様な他者の考えにふれ自分の考えを広め深められることで、よりよく生きていくモラル教育につながると思いました。
- ・普段書籍で読んでいたことを実際に先生からお聞きすることでさらに理解が深まりました。「多面的・多角的」で「深化」できる発問を考えることの大切さを改めて確認し、道徳的曲線で登場人物を整理する方法をやってみたいと思います。
- ・山田先生のご講演をお聴きすることができ、本当に幸せでした。いつも道徳の授業がうまくいかなくて悩んでいるもやもやしているポイントがあって、そこを山田先生が教えてくださいました。発問の4つの分類やp 4 c、考え方議論する道徳への転換のお話がとても勉強になりました。
- ・山田先生のお話を聞き、自分のやってきた道徳について考えさせられました。冒頭にあった「考える」ではなく「引き出す」というお話がとても印象的で、より一層教材研究を進める中での発問を意識していきたいと思いました。
- ・山田先生のお話はとてもわかりやすかったです。発問のA（共感的発問）B（分析的な発問）C（投影的な発問）D（批判的な発問）を意識して展開を考えたいと思います。
- ・山田先生のお話を聞きして、いろいろな話し合い方があることがわかり大変勉強になりました。対立した考えが出た場合は、共通点を見つけ話し合うことが大切ということも勉強になりました。

②金沢地区大会

第2学年2組 特別の教科道徳学習指導案

令和 6年 11月5日(水) 6限
場 所 2年2組教室
指 導 者 山元 彩

- 1 主題名 内容項目 「わかり合うこと」 B-（9）相互理解、寛容
- 2 教材名 「コトコの涙」（中学道徳 あすを生きる2 日本文教出版）

3 主題設定の理由

(1) 教材観

主人公・コトコは老人ホームでのボランティア活動中、お年寄りによかれと思って声をかけたことを友人に批判され、その真意が理解できずに悩む。園長の田島さんから、優しく接することは間違いないと慰められるが、ボランティアでは「よいことをしていると思ったらダメ」と諭される。コトコの心が変容する様子が「涙」で表現されている。本教材では、相手の自主性を認め、考え方や立場を尊重することの大切さと謙虚な態度の大切さを考えさせ、人とわかり合うための心構えや行動を考えさせるきっかけとしたい。

(2) 生徒観

2年2組の生徒は、比較的男女の仲がよく、グループ活動など積極的に行うことができている。しかし、発表の場面になると自信がないのか急に消極的になり、挙手発言できる生徒が固定化されてしまう。また、道徳の授業ではグループでの話し合いを通してテーマについて多面的・多角的に考え、自信をもって発表できるように工夫したいと考えているが、まだ不十分である。内容項目B-(9)相互理解、寛容については、「自分だけ『余り』になってしま……」で互いの立場や思いを認め合うことの大切さや広い視野に立って行動することの大切さについて学んでいる。しかし、中学2年生になると、ものの見方や考え方方が確立するとともに、それに固執する傾向も見えてくる。また、自分と他者の考え方の相違を恐れたり、考え方の違いから友だち関係に摩擦が生じたりして、悩み、孤立する場合がある。その一方で、安易に同調する傾向も生じやすい。本時では、登場人物4人それぞれの心情を理解するとともに、田島やコトコのように他者から学び、自身を振り返ることの大切さや、互いの独自性や立場を尊重することの大切さを学び、対話を通じて多様な見方や考え方があること気づかせたい。

(3) 指導観

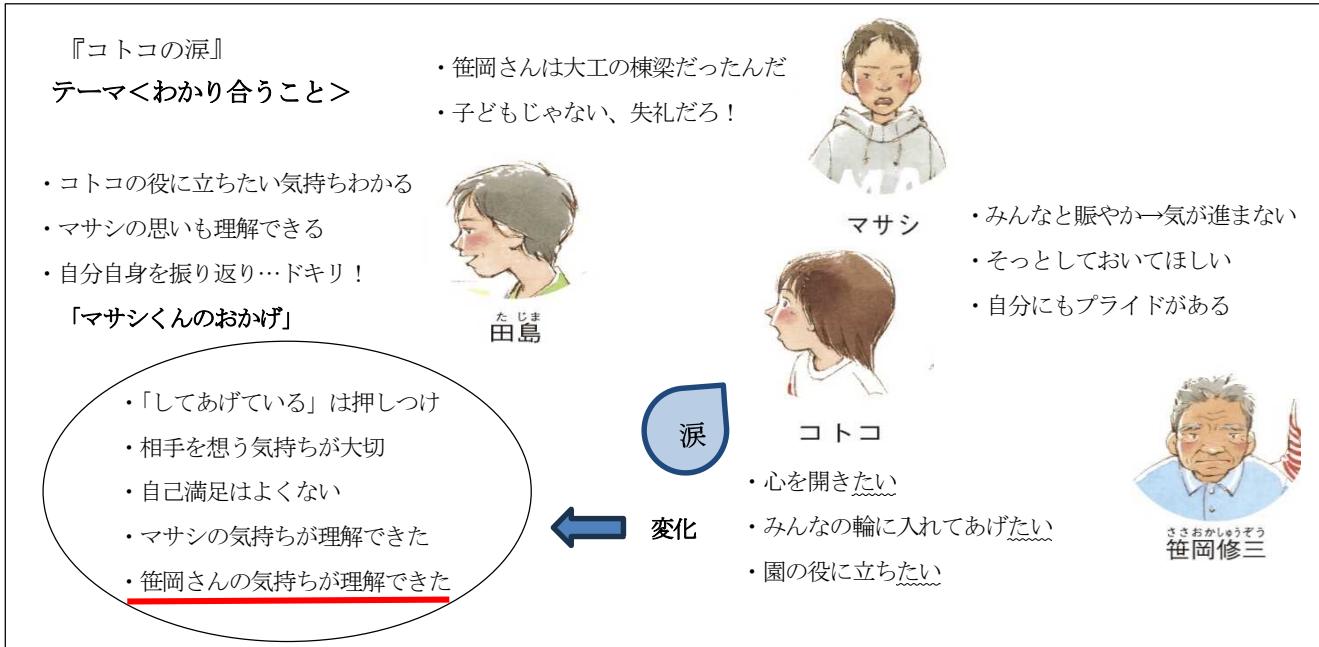
個性とは何かについて正しく理解させるとともにわかり合うことの第一歩は自分の考えを相手に伝えることだと言ふことに気づかせたい。人それぞれ自分のものの見方や考え方があり、個性がある。互いに相手の独自性を認め、相手の考え方や立場を尊重することが大切である。時にはそれぞれの見方や考え方とにられ間違うこともある。寛容の心持つて人を許し受け入れて、他者のよい面を積極的に認めることでよりよい人間として成長することができる。個性は自分で伸びるものではなく、他者に認められながら伸びるものである。この学習を通して、人が相互に個性や立場を尊重することが、自分の人生にとってどのような価値をもつかを考えるとともに、誰もが様々な立場に立つて個性を發揮することのよさと、相手や場面が変わっても、寛容の心をもち謙虚に学ぶことが人間としての成長に役立つことを理解させたい。

5 本時の学習

- (1) 教材名 「コトコの涙」
- (2) わらい 人にはさまざまな考え方があることを理解し、自分の考えを伝えつつ、わかり合い、他者に学ぼうとする謙虚な態度を育てる。 B-(9) 相互理解、寛容】
- (3) 学習過程

学習活動と生徒の思考の流れ (・) ○発問 ◎中心発問 ・予想される反応	時間	支援と手立て (・) と評価 (※)
<p>1 人の関わりで難しい場面について考える。</p> <p>○「家族や友だちなどと生活していて、わかり合えないなと思う場面はありますか?」(事前アンケートの結果を確認する)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケンカしたとき。全然価値観が合わないとき。 ・自分はこれが正しいと思っていたことが、違うと否定されたとき。(他クラスアンケートより) <p>2 本時のテーマを確認する <お互いに理解し合うには></p>	導入 5	<ul style="list-style-type: none"> ・事前にアンケートをとって、人の関わりの中で難しいと感じていることについて取り上げる。
<p>3 教材「コトコの涙」を読み、登場人物についてみんなで考える。</p> <p>○「除幕式でのコトコ、マサシ、笹岡さん、園長の田島さんはそれぞれどんな気持ちだったかな。」話し合ってみよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コトコ……笹岡さんに心を開いてほしかっただけなのに。ひとりで寂しそうだから、みんなの輪に入れてあげたいと親切にしたつもりなのに。 ・マサシ……棟梁の修三じいさんを子ども扱いするなんて信じられない。何やってんだ。 ・笹岡さん……みんなと賑やかにするのが億劫だ。そっとしておいてほしい。 ・田島さん……コトコの、役に立ちたいという気持ちもわかるけれど、マサシの思いも理解できる。自分のことも振り返り、ドキッとした。 <p>○「涙を止めることができなかったコトコは、田島さんの話をどのように受け止めたのかな？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「してあげている」という考えは、自分の考えや気持ちの押し付けになるのかもしれない。 ・笹岡さんの気持ちに寄り添っていなかつたかもしれない。 ・自分が正しいと思っていたことが全て正しいとは限らない。 ・相手を尊重する気持ちを忘れてはいけない。 	展開 15 15	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物それぞれの気持ちについて考えさせる。 ・班になり意見を伝え合わせる。 ・話し合った内容をワークシートにメモをさせる。 ・それが、それぞれの思いをもつていることに気づかせる。 ・笹岡さんの心情についてはすぐに出でこないかもしれないが、指名し、何人かに発表させる。 <p>・田島さんと同様に、自分の言動を振り返るコトコから、どんな考えに至ったかを想像させる。</p> <p>※相手の立場を尊重するとともに、自分とは異なる意見と向き合い、良いところは学ぼうという姿勢が大切だということに気づいている。 (ワークシート・発表)</p>
<p>3 話し合ったことをもとに、自分の考えをまとめる。</p> <p>○「お互いに理解し合うために、大切にすべきことはなんだろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の思いや気持ちを理解しようという姿勢。 ・自分がよかれと思っても、相手にとってはそうじゃないかもしれないと考えること。 ・自分とは違う意見に耳を傾けること。 ・互いの気持ちを伝え合うこと。 	終末 15	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをオクリンクプラスに入力させる。 ・何人が紹介した後、テキストマイニング化して、授業を通してみんなが一番感じたこと、学んだことを視覚化する。 ・振り返りを書かせる。

6 板書計画



【授業者より】

- 先行授業では、コトコがマサシの心情（憧れ・尊敬の念）を理解するというところまでは話し合うことができたが、笹岡さんの心情理解や、園長の田島さんの言葉の意図するところまでは、話し合うことができなかつた。
- 今回、ねらいとして、「人にはさまざまな考え方があることを理解し、自分の考えを伝えつつ、わかり合い、他者に学ぼうとする謙虚な態度を育てる。」とあるが、マサシの心情理解のみでは、ねらいに到達しないと感じた。
- どう授業を開展したら、笹岡さんの心情や、田島さんの言葉の意図するところなど、より深く考えることができるかと、発問に悩み、苦戦した。
- 授業の中でも、笹岡さんの心情を想像することが難しそうであった。そこが今回のポイントになるのではと感じた。
- まだ「討論する道徳」「話し合う道徳」にはほど遠い授業である。ぜひさまざまな視点で教えていただきたい。



【整理会・協議】

- 参観者には、あらかじめ三色の付箋をくばり、以下のような視点で授業を参観するよう求めた。
 - 青色の付箋・・・心の変容を導く指導法として良かった点など
 - 赤色の付箋・・・心の変容をより効果的に導くための指導法やアドバイスなど
 - 黄色の付箋・・・実際の生徒の様子を見て感じしたことなど
- 整理会では、全体を5グループに分け、指導案の本時の学習を拡大コピーしたものを各グループに配付し、各自が授業中に記入した付箋を、指導案の該当の箇所に貼ることから始めた。
- その後、付箋の内容をもとに各グループで授業について協議し、代表者に発表してもらった。

○導入について

- ・事前アンケートをとったのは良かった。
- ・他のクラスの結果と比較することで生徒の興味が上がった。
- ・アンケートをとったのは良かったが、もう少し懸念をかけても良かった。
- ・本当に相手のことをわかっているのか聞くことで考える必要性が出てくるのではないか。



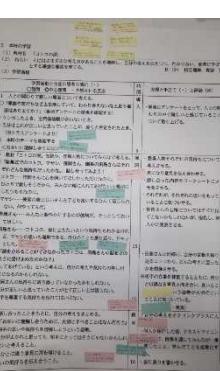
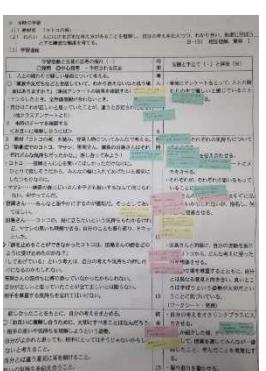
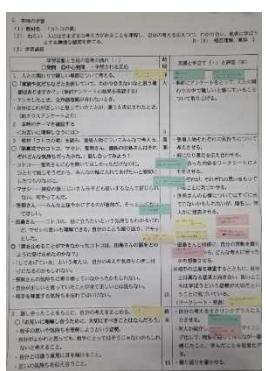
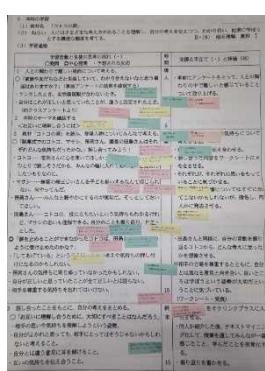
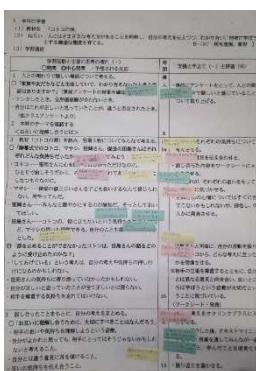
○展開について

- ・ICTがスムーズに使えていて、普段から活用しているのがわかった。
- ・板書がわかりやすく、考えがわかりやすかった。
- ・教師の発問から、グループ活動になる流れが良かった。
- ・思いやりのある声かけがあり、生徒を大切にしているのが伝わった。
- ・グループの形のまま授業が進んだが、途中で個別に考える時間があつても良かった。
- ・笹岡さんの気持ちを考えさせたのは良かった。
- ・笹岡さんの気持ちを理解させることに時間をかけすぎなくても良かったのではないか。
- ・心情の変化は、誰かに焦点化させれば良かったのではないか。
- ・先生と生徒の会話が多かった。生徒同士で意見をつなげる場面があれば良かった。



○まとめについて

- ・テキストマイニングを使って、見える化したのは良かった。
- ・オクリンクプラスを使えば変容がわかりやすかったのではないか。



【指導・助言】

- ・ペアで話し合いの雰囲気をしっかりとつくりながらグループに移ると話し合いが活性化する。
- ・板書の仕方を工夫し構造的にすることで、それぞれの考えを深めることもできる。
- ・本時の内容項目は、「相互理解、寛容」である。学習指導要領には内容項目の一覧が示されているので、小学校からの流れを含めて理解し、指導することが大切である。
- ・中学校では、「相互理解、寛容」を指導する際、
 - ①広い視野に立っていろいろなものの見方や考え方があることを理解しようとする態度を育てる
 - ②寛容の心をもち謙虚に他に学ぶことが人間の成長に役立つこと理解できるようにすることを踏まえる必要がある。

【指導の要点】 学修指導要領 解説 特別の教科 道徳編 P43

① 個性とは何かについて正しく理解するとともに、自らの意思に背いて他人に同調するのではなく、自分の考え方や意見を伝えること、そして**いろいろなもの**の見方や考え方があることを理解しようとするとする態度を育てる

② 人間が相互に個性や立場を尊重することが、自分の人生にとてどのような価値をもつか考へるとともに、**誰もが様々な立場に立って個性を發揮すること**のよさと、相手や場面が変わっても、**寛容の心**をもち謙虚に他に学ぶことが**人間としての成長**に役立つことを理解できるようにする

③能登地区大会

令和6年度の能登地区大会は、11月26日（火）に宝達志水町立相見小学校にて行われました。3年生の公開授業、授業整理会並びに協議会、中能登教育事務所の川崎指導主事からの指導助言という流れで行いました。以下は指導案と参加者の声です。

第3学年 道徳科学習指導案

指導者 川原 えみり

1 主題名 友達のよさ B-(9) 友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと。

2 教材名 たまちやん、大好き（「新しいどうとく3」東京書籍）

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

本主題は、第3・4学年の内容項目B-(9)「友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと」をねらいとしている。第1・2学年の「友達と仲良くし、助け合うこと」及び、第5・6学年の「友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと」につながるものである。

第3学年の段階においては、活動範囲が広がることで、集団との関わりも増え、友達関係も広がってくる。また、気の合う友達同士で仲間をつくるて自分たちの世界を確保し、楽しもうとする傾向があり、集団での活動などがこれまでになく盛んになる。しかし、自分の利害にこだわることで友達とトラブルを引き起こすことも少なくない。そこで、友達のことを互いによく理解し、信頼し、助け合うことで、健全な仲間集団を積極的に育成していく態度を育む必要がある。そのためには、友達のよきを見発見することで友達のことを理解したり、友達とのよりよい関係の在り方を考えたり、互いに助け合うことで友達の大切さを実感したりしていくよう本主題を設定した。

(2) 児童の実態について

主題に関わる児童の実態を把握するための事前アンケートの結果は、次の通りである。

質問	回答
あなたの友達は、どんな人ですか。	・一緒に遊んでくれる（9人）・やさしい（6人）・おもしろい（3人） ・遊びに誘ってくれる（1人）・明るい人（1人）・素敵な人（1人） ・色々教えてくれる（1人）・一緒に帰ってくれる（1人） ・物を貸してくれる（1人）・悪いことを注意してくれる（1人） ・気遣いができる（1人）・困ったときに助けてくれる（1人） ・したいことを言ったら「いいよ。」と言ってくれる（1人）
あなたの友達のよさは、どんなところですか。	・一緒に遊んでくれる（5人）・やさしくしてくれる（3人）・一緒に話してくれる（2人） ・「遊ぼう」と誘ってくれる（2人）・遊びの仲間に入れてくれる（1人） ・明るい気持ちにしてくれる（1人）・一緒に協力してくれる（1人） ・おもしろい（1人）・元気なところ（1人）・いつも笑っているところ（1人） ・つらい時や悲しい時にはげましてくれる（1人） ・いつも仲良くしてくれる（1人）・困ったことをなくしてくれる（1人） ・失敗しても「大丈夫？」と言ってくれる（1人）
友達が約束を破ったら、どんな気持ちですか。	・嫌な気持ち（6人）・かなしい気持ち（4人）・むかつく（1人） ・「こんな友達嫌だ」と嫌いになる（1人）・友達をやめたくなる気持ち（1人） ・仕方ないかと思う（2人）・許せるけど、嫌な気持ち（1人） ・「どうしてやぶったの？」と聞きたくなる気持ち（2人）

アンケートの結果から、具体的な行動を挙げながら、友達のよさを認めていることが分かった。また、「友達が約束を破ったらどんな気持ちか。」という質問に対しては、否定的な意見が半数以上であるが、「どうしてやぶったの？」と相手の理由も聞きたいという意見や、「仕方ないか」「許せるけど、嫌な気持ち」という意見もあった。このような、大切な友達との間で揺れ動く気持ちを引き出せるよう、このアンケートの結果を本時で指名する際の参考にしていきたい。

(3) 教材について

児童がよく知る「ちびまる子ちゃん」の話である。友達のたまちゃんとの約束を守った主人公のまる子は、約束を守らなかったたまちゃんとトラブルになる。しかし、自分がたまちゃんと同じような状況になったことから、まる子がたまちゃんの気持ちに気づき、理解して仲直りをする。このことから、友達とよりよい関係を築くには、相手の状況を理解し、互いに助け合い、信頼したりすることが大切であることを学べる教材である。

4 指導にあたって

【本時で自ら課題を追究し続け、課題発見・解決能力を育むために】

I わくわく導入

事前に行ったアンケート結果を、提示する際、写真なども用いて視覚的に提示し、これまでの経験を想起させ、教材を自分事として捉えられるようにする。そこで、そんな素敵なお友達と、ずっと仲良くしていくためにはどうしたらよいかと問い合わせ、課題につなげる。

II 深めるためのアシスト

まず、タイムカプセルを投げた時のまる子の気持ちを問い合わせ、動作化することで「大切な友達に約束を破られてしまった主人公の気持ち」を考えさせ、児童の思いを引き出す。次に、まる子がたまちゃんと同じ状況になってはっと気づいた時に「ごめんね、たまちゃん……」と自然に謝る場面について考えさせる。この時、役割演技をさせ、相手に自分の状況を理解してもらったり、謝ってもらったりした時の気持ちも一緒に考えさせ、相手が良い気持ちになり、良い友達関係になっていくことを確認する。

III 振り返り

児童のアンケートから、改めて具体的なエピソードも踏まえながら友達のよさについて確認し、自己を見つめられるようにする。



5 本時の学習

- (1)ねらい 友達と互いに理解し合い、友達を大切にしようとする態度を育てる。
- (2)評価規準 友達と互いに理解し合い、友達を大切にしようとしている。
- (3)準備 大型テレビ クロムブック 挿絵
- (4)展開

配時	学習活動 ・児童の反応	○支援 ◇評価（評価方法）
8分	<p>1 アンケート結果から、課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たくさん友達のよいところや素敵なところがあったね。 <素敵な友達と、ずっと仲良くしていくには?> 	<p>○事前に行ったアンケートの結果を、写真などを用いて視覚的に提示し、これまでの経験を想起させ、教材を自分事として捉えられるようする。</p>
12分	<p>2 教材を読んで、話し合う。</p> <p>○タイムカプセルを投げたまる子の気持ちは？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・約束したじやん。なんで来ないの。 ・友達なのに、なんで約束やぶるの。 ・ばか。もう友達やめる。 	<p>○動作化をさせ、大切な友達に約束を破られてしまった主人公の気持ちを自身に投影させ、児童の思いを引き出す。</p>
7分	<p>3 考えを深める。</p> <p>○自分なら「ごめんね、たまちゃん……。」の後に、何と言いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タイムカプセルを捨てなきやよかったです。 ・お母さんに頼まれて留守番をしていたんだね。知らなかつたのに怒ってしまった。 ・謝ってくれていたのに、どうして許さなかったのだろう。 ・早く仲良しに戻りたいよ。 ・謝ってくれたり、分かってくれたりすると嬉しい。 	<p>○登場人物のカード等を用いて、役割演技をさせ、相手の状況や気持ちを理解することの大切さに気付かせる。</p> <p>○少しでも、相手のことを考えている気持ちを価値付け、共有する。</p> <p>○自分のことを理解して許してもらえると、どんな気持ちか問い合わせ、相手もよい気持ちになることを共有する。</p>
13分	<p>○自分の大切な友達について、あなたにとってどんな人なのか考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が落ち込んでいる時に、はげましてくれて、自分を元気してくれます。 ・困ったことを無くしてくれます。一緒にいて、楽しい気持ちになります。 ・マラソン大会の時に、友達がいたからこそライバルとしてがんばれました。一緒にいると頑張りました。 	<p>○発問の前に、アンケートに立ち戻り、改めて友達の良さについて、具体的なエピソードを紹介する。</p>
5分	<p>4 振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大切な友達とずっと仲良くしていくためには、相手のことを考えて、分かってあげたり、許したり、謝ったりすることが大切だと思った。 ・友達のよさがたくさん分かって嬉しかったです。 	<p>◇友達と互いに理解し合い、友達を大切にしようと考えている。</p> <p>（行動・発言・ワークシート）</p>

6 板書計画



【参加者の声】

研究授業参観

研究授業では、川原先生の丁寧な教材・教具の準備や、子ども達を受け入れるあたたかな姿勢が印象的だった。教具を用いての役割演技では、子ども達は「たまちゃん」と「まるちゃん」になりきって心情を表現していた。また、本時の内容から離れそうになった場面では、先生が教材に戻って場を立て直すことで、児童が本線に戻ることができていた。

研究協議（指導・助言：中能登教育事務所 指導主事 川崎 利行 氏）を受けて

指導助言より、町内全体で、「考え方議論する道徳」と「読み取り道徳」の共存を目指した授業づくりができるとよいと思った。授業の前半では、「読み取り道徳」を行い、題材の内容を把握することで、より登場人物の心情を考えやすくなる。また、その心情を活かしながら、後半に「考え方議論する道徳」の場面を設定し、児童が自分自身と向き合うことで、道徳的諸価値に迫ることができるようにしたい。そのためにも、発問を吟味する必要がある。児童が自分の弱さに気付けるような発問、多面的に考えることができるような発問、多角的に考えることができるような発問、を教師が意図的に行う必要がある。児童が自分も周囲も納得できるような「納得解」を見つけることができるよう、「人間理解」「他者理解」「価値理解」の3つの理解を意識した発問を心がけたい。

珠洲市

1 研究主題 「一人一人の思いや考えを大切にした 道徳の授業づくり」

2 はじめに

珠洲市にある 7 小学校、2 中学校、2 義務教育学校の道徳教育推進教師が所属して研究活動を行っている。能登半島地震により、心のケア、他社との関係づくりを重視し、学びを継続する中で、道徳教育研究を進めてきた。

3 研究概要

月日	会場	概要
5月8日	緑丘中	研究組織づくり 研究主題設定 年間計画の検討
6月19日	飯田小	講義・演習 演題「一人一人の思いや考えを大切にした 道徳の授業づくり」講師 石川県教員総合研修センター指導主事 日光 博史 氏
9月18日	飯田小	実践交流会①
1月29日	緑丘中	実践交流会② 研究のまとめ 会計報告

3 内容

(1) 講義・演習 演題「一人一人の思いや考えを大切にした 道徳の授業づくり」

講師 石川県教員総合研修センター指導主事 日光 博史 氏

石川県教員総合研修センターより日光博史指導主事をお招きし、今年度の研究主題である「一人一人の思いや考えを大切にした 道徳の授業づくり」について講義をしていただいた。「価値理解」「人間理解」「他者理解」につながる発問を教員同士で考え、話し合った後に、発問づくりや授業づくりのポイントについて教えていただいた。また、本市では、児童生徒数が減り、多様な意見に触れられないという課題に対し、ワークシートに複数の考えを書けるようにしたり、保護者や地域の方と連携して授業で考えたことについて話し合う機会を設けたりする工夫について学ぶことができた。

(2) 実践交流会

各学校の実践を持ち寄り、2回に分けて交流を行った。6月の研修会で学んだことを早速実践する学校も見られた。道徳教育の要となる道徳科の授業での取り組み（発問・授業の流れ等）や各校で行っている推の取り組み（掲示、通信、トークタイム等）の実践を聞き、参考にし合うことができた。

4 成果と課題

- ・研究主題に基づき、研修会や実践交流会を通して、極少人数の学級であっても、家庭や地域と連携するなどして、考えを深めさせることの重要性を学んだ。また、実践交流を通して、道徳推進教師の役割や具体的方法について学び、実践に活かすことができた。
- ・いずれの学校も少人数学級になってきたため、課題を克服するべく、次年度は研究授業を取り入れたり、合同道徳（オンライン・集合型授業）を実践しながら、授業づくりを中心にして研究を深めていくことを確認し合った。

輪島市

1 研究テーマ 「自分ごとととらえ、自己の生き方について考えを深める道徳の授業づくり」

2 はじめに

輪島市道徳部会では、年2回の研究授業を開催し、小学校と中学校とともに授業を通した研修を行っている。今年度は「自分ごとととらえ、自己の生き方について考えを深める道徳の授業づくり」をテーマとして研究授業を行った。11月に門前中学校2年生と6小学校3年生の研究授業を実施し、中学校と小学校の道徳の授業を学び合うことができた。第3回部会では、11月26日に開催された県道徳教育研究会能登地区大会（宝達志水町立相見小学校）での研究授業と授業整理会、全体会についての報告を行った。部員は各校の道徳教育推進担当として、部会での研修を各校での研修に生かし、より良い授業を求めて道徳教育の研鑽を深めている。

3 取組状況

(1) 5月15日(水) 第1回部会 組織づくり、主題・年間計画作成

(2) 11月19日(火) 第2回部会 研究授業① 授業整理会(門前中学校)

〈主題名〉人間の弱さと向き合い生きる

〈内容項目〉D よりよく生きる喜び

〈教材名〉「足袋の季節」(明日への扉 学研)

〈ねらい〉人間には自らの弱さや醜さを克服しようとする強さがあることに気付き、自分に誇りをもち、人間として気高く生きていこうとする心情を育てる。

〈整理会〉・アプリ「ふきだしきん」の活用により、生徒の考えを共有し他者理解を促すことができた。
・生徒の発表に対して、問い合わせを行っていたので、考えを深めることにつながった。

(3) 11月27日(水) 第3回部会 研究授業② 授業整理会(6小学校)

〈主題名〉家族とともに

〈内容項目〉C 家族愛と家庭生活の充実

〈教材名〉「耳の聞こえないお母さんへ」(新しいどうとく3年 東京書籍)

〈ねらい〉父母、祖父母を敬い、家族の一員として家庭を明るく楽しくしていこうとする実践意欲を育てる。

〈整理会〉・事前に家族に手紙を書いてもらったことで、自分事として考えることができていた。また手紙の中でどんな言葉がうれしかったかを交流することで、より家族の一員であることを実感できていた。
・ちえことお母さん、自分と家族を同じような構造的な板書にしたことで、教材と自分たちがつながっていた。

4 成果と課題

- ・2回の研究授業を短い間隔で行ったことで、「道徳の授業づくり」について1回目で協議した内容を2回目の研究授業と整理会に繋ぐことができ、充実した協議・研修ができたと感じた。
- ・授業整理会の協議を通して、教師の発問や問い合わせが児童・生徒の心の中に響き、考えを深め、ねらいに迫る授業につながることを再確認することができた。
- ・児童・生徒の主体的・対話的で深い学びを実現するために、今後も研究授業の「参観の視点」を更新しながら、授業の展開や発問の工夫、板書の構造化、ねらいに応じた終末の工夫について研鑽していくことが必要である。

鳳珠郡

1 研究テーマ 「考え方議論する道徳の授業をめざして」

2 はじめに

鳳珠郡は、小学校7校と中学校5校があり、各学校より1名が郡道徳教育部会の部員として参加し活動を行っている。今年度も、考え方議論する道徳の授業について、各校の実践を交流し、ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びを、どの場面でどのように取り入れていくかについて研究した。また、若手教員が道徳推進教師となり、学校の道徳教育を進めていく上で、それぞれに課題を持っていることがわかった。現状を踏まえ、本部会の交流を通して、課題解決の手立てを見出していくことも目標とした。

3 取組状況

期日	会場	研究内容
5月 1日 (水)	能登町立松波中学校	第1回部会研修会 部会組織・事業年間計画
10月 9日 (水)	能登町立松波中学校	第2回部会研修会 授業実践報告
1月 22日 (水)	能登町立松波中学校	第3回部会研修会 研究のまとめ・次年度にむけて

〈実践報告〉

○授業実践

- ・導入の工夫…事前アンケート、動画の視聴、デジタル教科書の紙芝居、読み聞かせの機能。
- ・発問の工夫…本時のねらいに迫った中心発問や搖さぶりの発問を使い分けることで、児童生徒自身で深く話し合ったり、自己の考えを振り返って考えたりできる。
- ・タブレットの活用…ベン図で自分の考えを明確化。付箋機能で意見共有。

○道徳だより、ゲストティーチャー授業、家庭との連携

- ・道徳だよりの発行…行事などを取り上げ、どの内容項目を意識して指導しているか、道徳での学びがどのように日常生活に生かされているかなどを伝えている。4月に年間計画を学校全体で共有し、複数の教員で作成をし、学級や学年だよりの中に「道徳コーナー」を設ける形で発行する。
- ・ゲストティーチャーの活用…学年に年1回の授業実践を目標にし、地域の人材を活用する。
- ・家庭との連携…家庭学習として人権標語づくり。ゲストティーチャーとして保護者に依頼。

〈意見交流〉

- ・全校道徳、親子道徳、ゲストティーチャーを招いての道徳、ローテーション道徳など、教師がいろいろな授業スタイルに取り組んだことで、前向きに授業に取り組む生徒が増えた。
- ・校内の道徳に関する多様な掲示の在り方を共有することで、今後の参考になり、活動の選択肢が広がった。(道徳の板書、人権活動の掲示、縦割りの異年齢間による関わり、道徳コーナー等)

4 成果と今後の課題

成果として、1年間の計画的な取り組みや具体的な活動を話し合い、共通理解することで見通しをもって、部会の活動や授業研究を進めることができた。実践報告会では、各校の道徳教育の実践例や授業の概要、道徳推進教師の取り組みなどの様々な実践例を共有することができ、多様な情報交換や今後の参考となる道徳教育を知る機会となった。意見交流を通して、道徳推進教師の役割を再確認できた。課題として、共通の内容項目での指導案作成や研究授業など、活動内容を検討する必要がある。また、道徳資料の実物の共有(道徳便り、指導案など)も進めていきたい。開催回数が少ないので、C4thの活用をして、連絡や情報交換を行っていく。また、引き続き効果的なICT授業の活用について共有していきたい。

七尾市

1.研究テーマ 「豊かな心を育む道徳教育」

2.取り組み状況

月 日	研修事業名	会場	参加数	研修内容等
4月17日	組織会	七尾中学校	17人	組織づくり 研究テーマの設定
5月29日	研修会	石川県地場産業振興センター	14人	(道徳教育推進教師研修会) 道徳教育の在り方、道徳教育推進教師の役割について
10月25日	研修会	七尾中学校	12人	指導案検討 自分に正直に A(2) 正直、誠実 「まどガラスと魚」(日本文教出版 3年)
11月21日		天神山小学校	15人	研究授業 3年1組 大濱 将 教諭
1月	研修会	紙面にて 報告協議		今年度のまとめ 次年度以降に向けて

3. 研修会・研究授業の記録

□令和6年10月25日 指導案検討会 七尾市立天神山小学校 大濱 将 教諭

ICTを効果的に使うにはどんな形で、どんな場面で使うのがよいか話し合われた。心情メーターで気持ちの割合を可視化するのがよいという意見が出た。また、より価値項目を深めるためにゆさぶり発問を加え、さらに自分の心に迫ったら深みが出るのではないかと意見が出た。

□令和6年11月21日 研究授業 七尾市立天神山小学校 3年1組 大濱 将 教諭

- ・「まどガラスと魚」(日本文教出版 3年) 自分に正直に A(2) 正直、誠実
 - アンケートで子供たちの実態に迫っていた。
 - 授業の展開が、人間理解・他者理解・価値理解の流れで進んでおり、子どもたちの思考に寄り添った展開になっていた。
 - 心情メーターを使うことによって子どもたちは気持ちを表現しやすそうだった。心情メーターを2回使う展開だったが、1回目と変容を比べたり、変容した理由を説明する交流があるとよりよくなるのではないか。

中能登教育事務 品川指導主事より指導助言

- テンポがよく、子供が食いついていてよかった。
- 学年の目標・事項をおさえられているか確認して授業を作成・実施するとよい。
- 実態把握はアンケートと見取りが重要である。子どもは、正直はいいことだとわかっている。ねらいでは、児童の実態とつながりを持たせる。先生の言葉で語るのもよい。
- 道徳的諸価値についての理解について、人間理解・他者理解・価値理解 順番はこのとおりでなくてよい。
- 正直であることはいいことなのはわかっている。本当はそうでありたいがそうはいっても難しい。人間の弱さや課題意識のさらなる高まりを期待できる。
- ゆさぶり発問で、子どもたちからのモヤモヤを引き出せていた。優しい人でよかった。
ほっとした。という意見もあった。
- ねらいを達成できたかどうかは1時間ではわからない。物事を多面的・多角的に考える。
- 参考資料としてスマートスクールネットを活用できる。

4. 成果と課題

- ・研究授業は小学校担当で、研究授業の指導案検討会から整理会までICTの活用についてよく話し合われた。
- ・より価値項目をふかくとらえるために、ゆさぶり発問や問い合わせを考え子どもたちが何度も道徳的価値について考え、自分の心情を見つめる時間を多く設定できた。

鹿島郡

1 研究テーマ

「話し合い、議論を深めるための道徳授業の工夫について」

2 はじめに

特別な教科、道徳科では、道徳授業を軸に日常生活や様々な体験や活動において、児童の道徳性を育んでいる。道徳の授業では、教材をもとに、いかに自分事として考えることができるか、また、他者や自分との対話を重ね、いかに本音を語り、深い学びができるかが重要である。そこで、本研究会では、児童が考え、話し合い、議論を深めていくための手立てや発問について、研究授業を通して学び合うこととした。

3 取り組み状況

期 日	会 場	研 修 内 容 等
4月17日 (水)	鳥屋小学校	・部会組織づくり ・今年度の計画、研究授業の設定
10月7日 (月)	鹿島小学校	研究授業 <授業者>4年1組 堀口 亜紀 教諭 <主題名>長所をのばす <内容項目>A(4)個性の伸長 <教材名>つくればいいでしょ
10月25日 (金)	鳥屋小学校	堀口教諭の研究授業整理会 今年度のまとめ

<研究授業の成果・課題について>

(1) 成果

- ・友達の長所を伝える活動では、活発に対話する児童の姿があった。普段から学級でいいとこ見つけをしているためかと考えられる。日常の活動が学習に生かされていた。
- ・効果的な板書が児童の再思考や話し合いを促し、深く考えることに繋がった。
- ・児童の発言から、「短所も挑戦・努力・諦めないことで長所に変わる」という意見が出た。そのため、本時のねらいである「努力次第で長所をつくれることに気付く」ということを達成できた。

(2) 課題・今後に向けて

- ・児童の振り返りでは、「短所を長所に変える方法」という主旨の内容が多く、「長所を伸ばす」について考えた児童は少なかった。
→教材から考え、引き出すのは「短所→長所」。その後教材から離れ、自分の長所は今後どうしていくかを問いかけることで、長所を伸ばすことについても触れていく。→長所の捉え方を全体でおさえるとよい。
→長所の捉え方を全体でおさえるとよい。友達と比べて見つけるのではなく、自分の中で良いと思うことを長所としていいと伝えてあげる。
- ・教材から考える時間が長く、児童の考えがなかなか教材から離れられなかつた。
→自分事として考える時間を増やすように、前半部分の時間配分を短くするとよかつた。

4 成果と今後の課題

部員が4名しかいなかったため、今年度も研究授業は学校の授業研究会と兼ねて実施したが、授業整理会を別日にとり、学教研の研究テーマに沿って話し合うことができた。今後も研究授業を継続していくことで、道徳の授業力の向上を図ることができると考える。来年度はさらに、各校の道徳教育の実践や評価に関する意見交換を行ったり、県の発表会などに積極的に参加し他の会員に還元したりすることで、各校の道徳教育の充実に繋げられるようにしたい。

羽咋市

1 研究テーマ 心に響く道徳授業を求めて～ICT活用で深い学び～

2 はじめに

学校全体で行う道徳教育や、特別な教科道徳の学びを通して、自己の変容を自覚して、学びを自身の生活に繋げ、日常生活の中で実感することができれば、一人一人の深い学びを実現できるであろうと考え、道徳教育の推進、道徳化の指導の充実を図った。

3 地区の取り組み状況

月 日	会 場	内 容
4. 10	羽咋中学校	部会組織の決定・研究主題と推進計画の決定
6. 5	羽咋中学校	講義「ICT を効果的に活用して 深い学びへと誘う指導について」 講師 中能登教育事務所 指導主事 武原 都 氏
9. 17	栗ノ保小学校	授業参観 1年「こぐまのらっぱ」
11. 20	羽咋中学校	実践報告

4 成果と今後の課題

【成果】

- ・講義では、授業においてICTをどのように活用できるかを実践例から紹介していただいた。「導入」「展開」「ふりかえり」の各場面でどのように利用できるかを知ることができ、ICT活用のメリット・デメリットについても考えることができた。
- ・研究発表会の授業参観ではICTの具体的な活用方法について生徒の反応に注目して参観することができた。
- ・実践報告では、ICTの効果的な使い方や学校全体での取り組みについて意見交換をすることができた。ICTを用いることで考えを視覚化し、児童・生徒間の意見交流の視点とする方法や、端末内や道徳ファイルに今までのワークシートを蓄積していく方法などが紹介された。意見交流の際に評価の方法について共有することができた。

【課題】

- ・ICTの活用を、活用することが「目的」ではなく、あくまで考えを深めたりする「手段」としていくために効果的な活用について研究を続けていく必要がある。
- ・評価の方法など学校ごとに違いがあるものについては、よりよい方法について各校の実践を踏まえて意見交流していくと良い。

羽咋郡

1. 研究テーマ 「人と地域を生かした道徳教育」

2. はじめに

羽咋郡は、2町10校で組織されている。本年度は、能登地区大会が羽咋郡で行われた。小学校での研究授業、整理会、指導主事による指導助言が行われた。

3. 地区の取組状況

月・日	予定事業名	事業の概要
5月 8日 (水)	電話会議	組織作りと活動計画
11月 26日 (火)	部会	研究授業 相見小学校 川原えみり教諭

4. 成果と課題

研究授業では、丁寧な教材・教具の準備や、子ども達を受け入れるあたたかな姿勢が印象的だった。教具を用いての役割演技では、子ども達は「たまちゃん」と「まるちゃん」になりきって心情を表現していた。また、本時の内容から離れそうになった場面では、教師が教材に戻って場を立て直すことで、児童が本線に戻ることができていた。

指導助言より、町内全体で、「考え方論する道徳」と「読み取り道徳」の共存を目指した授業づくりができるよといつも思っていた。授業の前半では、「読み取り道徳」を行い、題材の内容を把握することで、より登場人物の心情を考えやすくなる。また、その心情を活かしながら、後半に「考え方論する道徳」の場面を設定し、児童が自分自身と向き合うことで、道徳的諸価値に迫ることができるようにならう。そのためにも、発問を吟味する必要がある。児童が自分の弱さに気付けるような発問、多面的に考えることができるような発問、多角的に考えることができるような発問、を教師が意図的に行う必要がある。児童が自分も周囲も納得できるような「納得解」を見つけることができるよう、「人間理解」「他者理解」「価値理解」の3つの理解を意識した発問を心がけたい。

河北郡市小学校

1. 研究テーマ

「道徳科における主体的・対話的で深い学びのある授業の工夫

～ICTの効果的活用を活かして～」

2. はじめに

「特別の教科道徳」において、資質・能力の三つの柱をバランスよく育んでいくためには、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が必要となってくる。また、ICTを活用しながら「考え、議論する道徳」を目指すことが、道徳科の特質に応じた「主体的・対話的で深い学び」を実現することになると考え、本研究テーマを設定した。

3. 地区の取組状況

【研究の重点】

- (1) 「考え、議論する道徳」の実現に向けた授業づくりの工夫
- (2) 対話が活性化するシンキングツールの活用(ICTも含む)
- (3) ノートやワークシート、観察等による道徳科の評価の工夫(ICTも含む)

【日程と内容】

日 時	会 場	主 な 内 容
4月19日(金) 15:30~	七塚小	•組織会 •研究主題の設定 ・年間計画
8月20日(火) 15:00~	七塚小	•指導案検討会 司会:下田沙也加 教諭 記録:阿保 侑子 教諭 •指導・助言・講義 助言: 金沢教育事務所 今村 有希絵 指導主事 講義「考え、議論する道徳の充実に向けた授業づくり」
10月16日(水) 14:00~	津幡小	•研究授業 授業者:神崎 駿介 教諭(2年) 主題名「してはいけないこと」A-善惡の判断、自律、自由と責任 教材名「わりこみ」(日本文教出版) •研究協議 司会:阿保 侑子教諭 記録:下田沙也加 教諭 •指導・助言:金沢教育事務所 今村 有希絵 指導主事
1月15日(水) 15:00~	七塚小	•研究のまとめ 司会:関谷 早淑 教諭 記録:出倉 祐望 教諭 実践交流「対話が活性化するシンキングツールの活用」

4. 成果と今後の課題

中心発問では、児童が多様な考え方を出せるよう、交流の場を設けたりシンキングツールを活用したりする。その際拡散した考え方を収束するような深めの発問をすることで、より価値について深く考えることができる。本時では、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度のうちどれを育てるのか明確にする。評価は多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかどちらで見取るかを決めて発言や記述を評価する。

本時のねらいが、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度のうちどれを育てるのか、教師が児童の実態や教材に合わせて考える。そのねらいを達成するために中心発問・深めの発問を設定する。個の発言へ問い合わせる場面では、立ち止まり、全体で考え方議論することで、より思考が深まっていくと考える。交流させる際は「自分の考え方と違う人と交流する」など、明確な目的をもたせる。その際キーワードを提示するなどして、より話し合いが活発になるようにする。

河北郡市中学校

1. 研究テーマ

「道徳科における主体的・対話的な深い学びのある授業の工夫」

2. はじめに

「特別の教科道徳」において、資質・能力の三つの柱をバランス良く育んでいくためには、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が必要となってくる。また、「考え、議論する道徳」への転換を目指すことが、道徳科の特質に応じた「主体的・対話的で深い学び」を実現することになると考え、本研究に取り組んだ。

3. 地区の取組状況

日 時	会 場	主 な 内 容
4月19日(金) 14:00~	宇ノ気中	組織会 各校の年間指導計画の確認 道徳教育推進教師の役割について
8月28日(水) 13:20~	河北台中	教材研究・研究授業の事前研
11月13日(水) 14:30~	宇ノ気中	研究授業・協議 授業者 宇ノ気中学校 田中 さや 教諭 「バスと赤ちゃん」(中学道徳 あすを生きる)
1月16日(木) 15:00~	河北台中	研究のまとめ(成果と課題) 各校の取組実践の紹介

4. 成果と今後の課題

- (1) 全員参加の主体的・対話的な深い学びのある道徳授業の実践を重ねていくことを大切にして生徒の道徳的成長を求めていく授業者の姿勢が大切である。そのために、生徒の思考を深めるため、いつ、どの場面で、何を問うか、どんな発問が効果的かを吟味しなければならない。
- (2) 「考え、議論する道徳」を目指すため、生徒自身が自分の考えを持ち、他者と交流する中で価値理解や他者理解を深め、最後には自分自身の生活を振り返り、道徳的価値が日々の生活につながるような記述ができる授業展開を工夫することが重要である。
- (3) 道徳授業における「主体的・対話的で深い学び」を目指すために、場面に応じたICTの活用が大切である。現在、ICT端末を使うことで他者との意見交流がより早く、より簡単にできるようになった。今後、生徒の多様な意見をどのように取り上げ、納得解へと収束させるための有効なICTの活用を考えていく必要がある。

金沢市小学校

1 研究テーマ 「主体的に考え、自己を見つめる道徳の学習」

2 はじめに

金沢市小学校教育研究会の主題「21世紀に生きる心と力を育む金沢型学校教育モデルの実践～問題解決を通して確かな学力を育む指導力の向上に向けて～」に沿って、道徳部会の研究を進めてきた。今年度も部会研究テーマのキーワードとなる「主体的に考える」と、「自己を見つめる」についての捉えを部会全体で明確にして取り組んできた。

「主体的に考える」とは、

- ・ねらいとする道徳的価値について「どうしてだろう」「もっとよい方法はないか」「自分だったらどうするか」等、目の前の問題を自分事として深く考えようとすること。
- ・目の前にある問題に対して「Aという立場だけでなく、Bという立場だったら……」「本当にAという選択でよかったのか」等、多面的・多角的に考えようとすること。

「自己を見つめる」とは、

- ・「主体的に考える」を通して、「今までの自分は〇〇についてどのように考えてきたか」自分の経験や生活をひり返り、内省を通して「もっとこんな自分になりたい」「次は、こんな風に行動したい」と、よりよく自分の生き方を考えようとすること。

この捉えをふまえ、子どもの心に響く道徳を目指し、研究授業を中心に研究を進めてきた。

3 地区の取り組み状況

月・日	活動内容
5月 9日	本年度の研究の進め方 研究テーマ 組織づくり 会場：夕日寺小学校
6月 6日	7月研究授業指導案検討 道徳推進教師の取り組み・授業研究情報交換 会場：夕日寺小学校
7月 4日	【研究授業①中学年】西南部小学校 坂井会次郎教諭（3年） 会場：西南部小学校
8月 8日	9月研究授業指導案検討 道徳推進教諭の取り組み・授業研究情報交換 会場：夕日寺小学校
9月 12日	【研究授業②高学年】森本小学校 宇枝美帆教諭（5年） 会場：森本小学校
11月 7日	12月研究授業指導案検討 道徳推進教師の取り組み・授業研究情報交換 会場：夕日寺小学校
12月 5日	【研究授業③低学年】安原小学校 佐野愛理教諭（1年） 会場：安原小学校
1月 16日	本年度の総括 次年度に向けて オンライン研修

4 成果と課題

研究の具体化の視点を3点①児童が問題意識をもって主体的に学習に取り組むための工夫②物事を多面的・多角的に考え議論する学習展開の工夫③自己を見つめ、これからの生き方を考えようとする終末場面の工夫に絞って進めてきた。

成果・高学年では、様々なICT活用の交流によって、効果的なタイムマネジメントにつながった。

- ・中心発問では、登場人物の心情にしっかりと共感させ、それを共有し合う時間を十分にとることでねらいに対する価値が深まっていく。

- ・教師からの意図的な問い合わせやさぶりの発問が、議論につながったり自分事として生活を見直したりする手立てとなるため、そのタイミングやねらいに合った表現を研究できた。

課題・低学年でのICT活用は、視覚的効果が期待できるが、タイムパフォーマンスが悪くなることもあるため、さらに研究が必要。（ICT活用が、目的になってはいけない）

金沢市中学校

1 研究テーマ

「心の変容を導く効果的な指導法の研究」

～ICTを効果的に活用し、考え、議論する道徳を実践する～

2 はじめに

本部会では、生徒が授業を通して自分の考え方や感じ方をより深められるよう多様な指導方法を取り入れ、効果的な授業をどのように展開すれば良いか、今後も追求していきたいと考えた。そこで、今年度も昨年度と同じ研究主題で取り組み、各校の現状および実践を交流し効果的な指導法を研究するとともに、研究授業を実施し、さらに検証を行うことにより、1年間を通して研究を進めた。

3 地区の取り組み状況

期 日	会 場	研究・研修内 容	備考(講師等)
5月10日(金)	港中学校	①今年度の研究主題・年間計画 ②研究の進め方 ③道徳の授業づくりについて	
8月21日(水)	高岡中学校	研究授業の指導案検討会	金沢市教育委員会 谷内景子指導主事
11月5日(火)	高岡中学校	①研究授業 山元 彩 教諭 「コトコの涙」B-(9)相互理解、寛容 ②授業整理会	金沢市教育委員会 谷内景子指導主事
1月7日(火)	港中学校	①来年度の研究主題について ②学習会 「生徒の思考の流れを意識した授業づくり」	金沢市教育委員会 谷内景子指導主事

4 成果と課題

5月部会で、昨年度に引き続き「ICTの活用」と「考え、議論する道徳」に焦点を当て、道徳の授業づくりや実践交流をすることとした。8月部会では、11月に行う研究授業の指導案を研究委員で検討し、谷内指導主事から助言をいただいた。11月部会では、高岡中学校で山元教諭による研究授業を実施し、ICTの効果的な活用により、生徒の考えを共有し心の変容が自覚できるような道徳の授業を展開することができた。また、板書の仕方を工夫することで、それぞれの考えを深めることもできることを谷内指導主事から助言していただいた。1月部会では、「生徒の思考の流れを意識した授業づくり」と題して学習会を開き、谷内指導主事の指導のもと、グループ活動を通してねらいとする道徳的価値に迫る授業づくりについて学ぶことができた。

今後は、「考え、議論する道徳」とは、具体的にどのような授業を目指せば良いのか、本部会で日頃の実践における疑問等を出し合い、より良い授業にするための改善点を協議し、各学校における道徳の授業に還元できるようにしていきたい。

野々市市

1 研究テーマ

「道徳科の授業の充実」

2 はじめに

道徳人権部会は、昨年度に引き続き、道徳科の授業づくりに焦点を当て、研究授業を通してさらなる授業力の向上を目指していくことにした。

道徳人権部会での成果と課題を各校に還元し、日々の実践に活かし積み上げていくことで、さらに子ども達の心に響く授業につながると考え取り組んでいる。

3 地区の取り組み状況

回	日付・場所	内 容
第1回	4月19日（金） 富陽小学校	研究部会① 研究テーマ決定 組織会、年間計画決定
第2回	6月 5日（水） 富陽小学校	研究部会② 講義 「道徳科の授業づくりの基本と、終末の充実に向けた教師の働きかけのポイント」 講師 金沢教育事務所 丸岡 静華 指導主事
第3回	8月19日（月） 富陽小学校	研究部会③ 指導案検討「なかよしでいたい」
第4回	10月16日（水） 富陽小学校	研究部会④ 研究授業 主題名 ともだちをしんじる 内容項目 B 友情、信頼 教材名 「なかよしでいたい」 授業者 教諭 伊藤 大悟（富陽小学校2年3組） 助言者 金沢教育事務所 丸岡 静華 指導主事

4 成果と今後の課題

今年度も「道徳科の授業の充実」のテーマのもと、日々の授業を充実させるための手立てについて研究を深めることができた。

6月の第2回市教研では、「道徳科の授業づくりの基本と、終末の充実に向けた教師の働きかけのポイントについて」というテーマで、金沢教育事務所丸岡静華指導主事より講話をいただいた。道徳科の目標や特質を踏まえた教材研究のポイントや導入・展開・終末の授業構想や、道徳科の終末の充実に向けた教師の働きかけのコツについて教えていただいた。各授業場面における発問の演習を交えながら例を示してご指導いただくことで、具体的な授業イメージをもつことができ、大変勉強になった。

さらに、市内7校から集まったメンバーと交流する中で、それぞれのメンバーがどのように教材を捉え、授業構想をしていくのかを情報交換することができたり、普段の授業で実践していることや悩みとその対応について意見交換をしたりすることができ、有意義な研修となった。

今後も、子どもの思いを生かした対話のある道徳授業を通して、子どもたち1人1人が自分の納得解を見つけることのできる道徳科の授業を目指していきたい。

10月に実施した富陽小学校伊藤教諭による研究授業では、ICTによるアンケート画面と板書を比較しながら、子どもたちが終末まで自分事として考え、ねらいへと迫っていく授業を参観することができた。事前に、児童の思考に沿った発問やねらいに迫るための発問、着地点として児童のどのような姿を目指すのかについて、しっかりと検討できたことも成果と言える。

今年度得た学びを次年度につなぎ、ねらいとする価値について児童1人1人がより深く考え方論することができるよう、教師の手立てや働きかけについて学びを深めたい。

白山市

1 研究テーマ 「児童・生徒一人ひとりの思いを活かし、 よりよく生きようとする心を育てる道徳・人権授業の工夫」

2 はじめに

よりよく生きるために基盤となる道徳性を養うためには、道徳的価値についての理解を基に自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考え方を深める学習を展開する必要がある。また児童・生徒一人ひとりに道徳的な判断力、心情、実践意欲、態度を育てるためにも、教師の授業力の向上が不可欠である。本市道徳・人権教育部会では、上記研修テーマのもと、研究授業の実践を行う。

3 取り組み状況

- (1) 研究授業を行い、意見交換しながらよりよい授業づくりを目指す。
- (2) 研究授業には指導主事等外部講師を招聘し、指導・助言の機会を持つ。
- (3) 模擬授業による研修や授業資料を持ち寄る授業検討会を行う。

回	日 程	内 容	会 場
1	4月 24日 (水)	組織会 研究主題、今後の計画について	美川小学校
2	6月 8日 (木)	第1回研修会 学習会「道徳の授業づくり」 講師 金沢教育事務所 今村有希恵 指導主事	美川小学校
3	8月 2日 (金)	第2回研修会 研究授業指導案検討会 指導助言 金沢教育事務所 今村有希恵 指導主事	美川小学校
4	10月 9日 (水)	第3回研修会 研究授業 授業者 松陽小学校 川原 弘毅 教諭 指導助言 金沢教育事務所 今村有希恵 指導主事	松陽小学校

4 成果と課題

今年度は、小中学校における道徳の授業づくりについて研修会を行った。講師である今村指導主事からは、導入から終末までの授業の基本的な流れとそれぞれのポイントについてわかりやすく教えていただいた。特に、展開における3つの道徳的価値理解（人間理解、他者理解、価値理解）を意識した発問の工夫、導入・展開・終末における効果的なICTの活用について、さらに、道徳科の評価について学ぶことができた。参加した部員は、それがこれからの授業にどのように生かしていくか考えていた。

研究授業では、研修会での学びを生かして、子供の思いを大切にした授業実践を行った。導入でのICTの活用、発問や問い合わせに対する児童の反応を受け止め、さらに深めるための発問や話し合いを取り入れ、ねらいに迫ることができた。担任である授業者と子ども達との信頼関係から、温かな研究授業となり、改めて授業の土台となる学級経営の大切さを感じた。研究協議では部員から感想や意見が活発に交わされ、後半の指導助言も含めて学びの多いものとなった。

部員の多くが道徳教育推進教師であることから、この研修会での学びをそれぞれの学校で還元することを期待している。今後も、子どもたちの思いを大切にし、学び合いを通してよりよく生きようとする心を育てる道徳授業を目指して、研修を充実させていきたい。

能美市

1. 研究テーマ

考え方、議論する道徳のあり方～深い学びにつなげるために～

2. 地区の取り組み状況

	研修会等	研修内容等
5月	第1回	○組織づくり、年間テーマ、年間計画立案 ○各校道徳に係る推進状況についての情報交換
8月	第2回	○授業づくり研修会 (袴谷 美弥指導主事 日光 博史指導主事 招聘) ・ICTを効果的に活用した道徳授業の在り方。考え方議論する道徳にするための授業展開・発問の在り方についての講義
11月	第3回	○いしかわ道徳教育推進事業 研究発表会 能美市立湯野小学校 参加 ・各学年1本ずつの公開授業 ・全大会…岐阜聖徳学園大学 山田貞二教授氏による講話等
1月	第4回	○研究会の感想交流・振り返り ○各校の道徳実践に係る情報交換・年間の振り返り

3. 成果と今後の課題

- ・8月研修会では、県の指導主事より教材分析や授業構想の方法について講義をしていただいた。教材をもとに、授業の組み立て方や発問の仕方、また効果的なICT活用について実践を通して学ぶことができ、考え方議論する道徳への授業構想の方法が浸透した。
- ・湯野小学校の研究発表会に参加し、授業参観や講演会等を通して、学びを深めることができ、授業改善や自校での取組にいかすことができた。また、公開授業からは、学級づくりが何よりも大切であることに改めて気づかされた。
- ・実践報告では、指導案をはじめ授業構想シート・ICTの活用・ワークシート・板書の工夫・道徳通信等、各校での取組について情報交換することができた。何よりもこの研究会での学びを、各校に持ちかえり校内でどのように広げ授業改善につなげていくかについて共有することができた。
- ・次年度は、道徳授業における「見方・考え方」について、また、構造的な板書、評価の視点について研修を深めていきたい。

小松市

1. 研究テーマ 「共によりよく生きようとする児童の育成を目指して」

2. 地区の取組状況

	月 日	事業名	会場	研修内容など	参加数
1	5月7日	総会 第1回研修会	芦城小	組織づくり、研修計画作成	34
2	6月5日	第2回研修会	苗代小	講話「道徳の授業づくり」串小 柴田校長 学年別教材研究	34
3	7月24日	第3回研修会	苗代小	安宅小渡邊教諭模擬授業 学年別教材研究	33
4	10月23日	第4回研修会	苗代小	稚松小 松尾教諭、月津小 門藤教諭 南部中 中野教諭 模擬授業	33
5	1月15日	第5回研修会	苗代小	講話「つなげる道徳を共に」苗代小 広見校長 学年別情報交換・今年度のまとめ	34

会員数 35名

3. 成果と課題

・第2回研修会では、串小柴田校長より、「道徳の授業づくり」について、具体的に講義をしてもらった。その後、各学年担任及び中学校担任に分かれ、簡単に授業研究を行う教材を決めた。今年度の授業研究は、模擬授業を通して行うこととなったので、模擬授業者を決めたり、簡単な教材研究も行った。全体で一つの教材について意見交流することは、若手にとって学びが大きかったようである。

・第3、4回研修会では、上記の日程で模擬授業を行った。児童とのやり取りは見られなかつたが、低学年、中学年、高学年、そして中学校の授業に触れることができ、発達段階を考えた道徳の授業づくりについても考えることができた。いくつかの授業を参観したことで、共通して大事にしていることや工夫のバリエーションについて共通理解することができた。

・第5回目は、今年度退職する苗代小広見校長より、「つなげる道徳をともに」という題で講話を聴いた。これまでの道徳教育に対する真摯な取り組み、子どもへの愛情、道徳部会の大切さ等について学ぶことの多い講話であった。本研究会は、道徳の指導力向上を目指す教員が多く集まっている。中堅教員が少ないという学校の現状を考えると、本会は、学校以外の人間関係づくりの場としても重要であると考える。今後は、教員の人間関係づくりという視点からも、益々その重要性は増すと考えている。人間関係を深め広めることを意識した研修の仕方を今後も工夫していきたい。

加賀市

1. 研究テーマ 「自己の生き方について自ら考え、よりよく生きようとする子の育成」

2. 地区の取組状況

回	開催日時	事業名	会場	研修内容など
1	5月 10日	第1回研修会	片山津中学校	組織作り 研究主題設定 研修計画作成
2	7月 23日	第2回研修会	片山津中学校	研究授業に向けての授業構想シート作成
3	11月 7日	第3回研修会	勅使小学校	研究授業(勅使小学校教諭) 【1年 授業者 山田光莉教諭】 主題名 うそやごまかしをしない 内容項目 A正直、誠実 教材名 「あのね」(教育出版) 【6年 授業者 秋野光哉教諭】 主題名 本当の「自由」とは 内容項目 A善惡の判断、自律、自由と責任 教材名 「うばわれた自由」(教育出版) 授業整理会 ・授業者より ・グループ協議 ・全体交流 全体会 ・開会挨拶 石川県学校道徳教育研究会 会長 柴田 和美 校長 ・講演 岐阜聖徳学園大学 教授 山田 貞二 氏 ・閉会挨拶 加賀市立勅使小学校 細川 貴代 校長 今年度反省、次年度計画

3. 成果と課題

- ・第2回研修会では、研究授業の授業構想シートを全部員のグループ協議で作成した。中心発問や深化発問、自分事として考える授業展開の工夫について協議し、授業者と共に考えることができた。
- ・第3回研修会では、「授業の視点」を意識した研究授業を参観し、7月の協議を生かした授業整理会を行うことができた。部員が自分事として授業づくりに参加できたことが有効であった。山田貞二先生のご講演についても、参加者の感想からも分かるように、自分の授業に生かしたいと思える大変学びのあるお話を聞きてきてよかったです。
- ・本授業研修会は、道徳の指導力向上を目指す若手教員が多く集まっている。研究授業の2名の授業者においても子供と教材に向き合い、よりよい授業を目指す姿が見られた。今後も若手教員が意欲的に学び進められる研修となるよう工夫していきたい。

全国小学校道徳教育研究大会 夏季中央研修講座 報告

石川県小松市立安宅小学校 教諭 草 雄介

日時 令和6年8月1日・2日
場所 東京都大東区立根岸小学校
日程 8月1日（木）
　　講演・模擬授業・研究協議会
　　8月2日（金）
　　講演・閉講式
　　講話 赤堀 博行 帝京大学教授
　　講話 堀田 竜次 教育課程調査官

模擬授業（参加した授業）

▼高学年分科会

- ・授業者 町田市立町田第一小学校教諭
　　佐藤 寛子先生
- ・主題名 寄り添う心
- ・内容項目 B 相互理解・寛容
- ・教材名 ブランコ乗りとピエロ
　　（文部科学省 私たちの道徳）

▼模擬授業に参加した感想

「話し合える授業、話し合える学級づくり」がテーマで話し合うための道徳にするための土台となる学級づくりが大切であることを再確認できた。

印象的だったことは3点ある。1点目は「必然性を大切にした、考えたくなる導入と課題設定」である。身近な生活場面（ここでは総合的な学習の時間で行った子どもまつりを取り上げていた）を取り上げ、どう考えれば解決へとたどり着くのか、自分事として考えるための工夫が学ぶ意欲へつながると感じた。

2点目は「児童とつくりあげていくための発問」である。考えさせたい部分を教師が強く意識しすぎることで、教師主導で流れが見えない授業展開に陥ることが少なくない。児童の思考の流れに沿って授業展開していくための発問を考えることで児童の思考の深まりが望めることを改めて確認できた。

3点目は「価値に迫る発問」の重要性である。



本校では「深める発問」と位置づけ、教材の表面から深層に迫るための発問を考えることで思考の深まりが見られる。

▼講話 赤堀博行 帝京大学教授

「道徳科授業マネジメント～道徳科の特質を生かして～」

道徳教育をどのように進めていくのか、基礎基本の部分から丁寧な解説と、道徳教育を教育活動全体で行っていくための見方・考え方についての講話であった。その中でも特に印象的だったことは「人生は選択・判断の連続であり、その内面的資質を養うのが道徳」という言葉である。

学校教育全体で児童の道徳的資質を高めていくためのカリキュラムマネジメントが必要であること。そして教師がいかにそれらを意識して指導することを大切にできるのかということを感じた。また指導案の中にも教科との関わり、行事との関り、日常生活との関わりについて書かれていた。ここまで深く関連付けて考えていくことが道徳性を高めることにつながるのだと感じた。

▼講話 堀田竜次 教育課程調査官

「共によりよく生きる児童を育む道徳教育～自己の生き方についての考えを深める道徳科の指導の充実～」

自己の生き方についての考えを深めるためにICTの活用や指導方法の工夫についての話があった。そこで印象的だったことは、「指導方法の工夫は手段であり、目標にならないこと」という言葉である。指導者が明確な指導の意図がないと上辺だけの指導となってしまい、人生をいかに生きるべきなのか深く考えることが難しくなる。多様な指導方法を選ぶ際にも意図をもって考えていく必要があると感じた。

道徳科の特質とは？と問われ自分で答えをもてるよう教師も意識をもち日々の授業に臨んでいくことが大切だと改めて感じることができた。

令和6年度 第4回全小道研夏季中央研修講座 報告

津幡町立井上小学校 教諭 中村 海里

開催日 令和6年8月1日(木)・2日(金)

場 所 台東区立根岸小学校(東京都)

日 程 8月1日(木)

講演(帝京大学 赤堀 博行 教授)

模擬授業・研究協議会

8月2日(金)

講演(文科省 堀田 竜次 教科調査官)

模擬授業(参加した授業)

・授業者 世田谷区教育委員会 橋本 ひろみ 教諭

・主題名 友達を大切にするよさ

・内容項目 B 友情、信頼

・ねらい 友達と互いに理解し、信頼し、友情を深めていこうとする態度を育てる。

・教材名 「卓球は四人まで」

(出典 小学校道徳 読み物資料集 平成23年度文部科学省)

授業の感想

橋本教諭の授業を参観し、一番感じたことは児童(今回は児童役の先生方)の言葉を温かく受け止め、短い言葉で板書していたことである。授業の中でも、児童に「何で板書しようか。」と何度も聞いていたのも印象的である。児童の言葉をそのまま板書しようとすると時間がかかり、構造的な板書にはならない。児童にとっても何を中心に考えてきたのか分からなくなってしまうだろう。授業者によると児童の発言のどの言葉を取り上げて板書するかは指導観(何を考えさせるか)によって変わるということであった。児童にどう

なことを考えさせたいのか指導観を明確にすることが板書づくりの基盤になることが分かった。



研究協議会(参加した分科会)

・中学年分科会

・講評 全国小学校道徳教育研究会

第36代会長 針谷 玲子 教諭

分科会の感想

針谷教諭によると、道徳科で大切にしてほしいことは以下の3つである。①児童が道徳的価値の理解を深めること②道徳教育を基にした学級指導と行事を結び付けること③根底には道徳教育があること。「主体的・対話的で深い学び」を実現するためには、一人一人の力が生きる温かな学級集団を、道徳教育を基盤とした学級経営や道徳科の授業を通して育成していくことが大切であるということがよく分かった。

講演 帝京大学 赤堀 博行 教授

「道徳授業マネジメント 道徳科の特質を生かして」
一つ一つの行動には様々な道徳的価値が関わっている。どうすることが正しいのか、適切なのか、何ができるのか自分で判断できる力を児童につけていくことが大切である、との話があった。

講演 文科省 堀田 竜次 教科調査官

「共によりよく生きる児童を育む道徳教育」

道徳科の学習は「人生をいかに生きるべきか。」という生き方の問い合わせを考える学習である、との話があった。

全小道研中部地区大会 小学校道徳研究大会 岐阜大会 報告

自他ともによりよい生き方を求め、
実践する児童を育てる道徳教育はどうあるべきか

七尾市立和倉小学校 寺井 怜子

日 時 令和6年11月1日（金）

発表校 岐阜県郡上市立八幡小学校

分科会 郡上市総合文化センター

防災センター・産業プラザ

講演会 日本真ん中センター

② 岐阜県飛騨市立古川小学校 小谷章 教諭

「地域講師と協働した命の教育」

▼分科会の感想

志賀町立志賀小学校の提案では、保護者参加型の道徳授業、毎月の道徳だよりの発行、道徳コーナーの設置などで、保護者や地域に積極的に道徳教育の取組を発信していた。その取組をさらに効果的にするために、「学校ではどのような力をつけるとしているのか、どんな子に育ってほしいと願っているのか」というところまで伝えておくことで、学校と家庭が同じベクトルで児童を育てていけるのではないかと助言があった。道徳推進教師の立場として、重点項目の確認にとどまらず、どんな子に育ってほしいのか具体的な姿を教職員で共有し、道徳だよりでは家庭に何を発信していくのか、どんな協力依頼をしていくのか、内容を吟味する必要性を痛感した。

3 記念講演

演題「道徳科の授業参観から課題を考え解決する」

講師：岐阜聖徳学園大学 教育学部 河合宣昌氏

道徳の授業の中では、『きれいごとの意見の出し合いではなく、自己をじっくり見つめる時間が「今後はこうなっていきたいな、こんな考えをもっていきたいな」と実生活に生かしていこうという姿勢につながる』という内容がとても印象に残った。今まで、あまり深く考えずに「あなただったらどうする？」「これからどうしていきたい？」と問っていた。しかし、これでは自己を見つめる時間にはなっていなかったのだなと感じた。

道徳推進教師として、道徳科の授業の時間の特質やねらいに迫るために発問や問い合わせをし、全職員で情報を共有しながら今後も研究を深めていきたい。

1 公開授業

▼郡上市立八幡小学校二年一組

授業者 菅原悠剛 教諭

主題名 おもいやりのこころ

B 親切・思いやり

教材名 「ぐみの木と小鳥」

▼授業の感想

導入では、本時の主題にかかわるこれまでの経験を想起し、その後「この行動いいなと思うところを探しながらお話を聞いてね」と視点を与えて教材文に入っていたところが、価値理解につながっていたと感じた。また、価値理解・人間理解・他者理解の3つを意識した発問内容となっており、指導案にもしっかりと明記されていた。児童の自然な考えを引き出すためには、発問の吟味と教師の意図的な問い合わせが大切であると感じた。授業終盤には価値理解を深めるために役割演技を取り入れていたが、児童同士ではなく、教師から児童へ問い合わせて語るようにすることで、考えさせたい道徳的価値に迫ることができていたのがとても印象的であった。

2 テーマ別分科会

▼第5分科会（低学年）

「家庭や地域社会との連携を生かした道徳教育の工夫」

① 石川県志賀町立志賀小学校 細口真紀 教諭

「人と地域を生かした道徳教育」

令和6年度 全小道第37回中部地区小学校道徳教育研究大会に参加して

道徳の深い学びとは

能美市立湯野小学校

東山 麻由美

日時 令和6年11月1日（金）

場所 郡上市立八幡小学校

総合文化センター

日本真ん中センター

日程 11月1日（金）

公開授業

分科会

全体会

記念講演

公開授業

►郡上市立八幡小学校6年1組

授業者：酒井 瞳 教諭

主題名：目標をもってやりぬく

内容項目：希望と勇気努力と強い意志

教材名：鑑真和上

►授業の感想

以下の点について今後の自校の研究の参考になると感じた。

・親和的な学級経営。一人一人が理由を持ち考えを話し、どの考えも受け止めている。

・意見を受け止める時の素直な反応が、次に意見を言う意欲へとつなげている。

・ふり返りの記述がとにかく素晴らしい。過去現在未来にわたって自己を見つめることができている。

分科会

►高学年（第2分科会）

テーマ

自己の生き方について考え方を深める道徳科の工夫

►感想

福井県や岐阜県の取り組みについて聞くことができ、対話を深めるには聞き返すためのワードを児童と共有する事が大事だと感じることができた。学校全体の組織的な取り組みが欠かせないとも感じた。

記念講演

►講師

岐阜聖徳学園大学教育学部

河合 宣昌 氏

演題

道徳科の授業参観から課題を考え解決する。

►感想

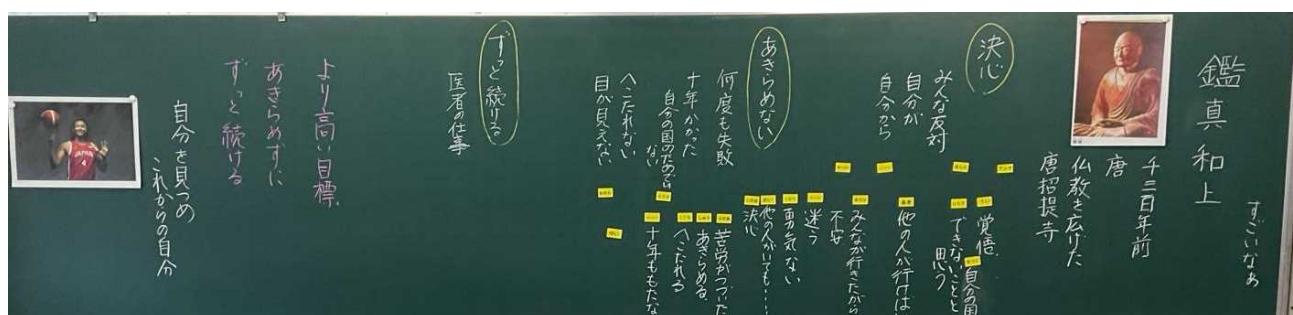
郡上八幡小学校で見た授業が、何を大切にして作られてきたのかが学べた。

・道徳授業の目的は、価値の深まりであり、それが本時のねらいになる。

・そのためには、自己の変容まで最終的に語れないといけない。

・変容を踏まえた「深い学び」にたどり着くには、ペアなどの対話が大切。

・必然性ある発問や、シンプルでキーワードのみの板書、グループピングされた板書が学びを深める。



第37回中部地区小学校道徳教育研究大会 岐阜大会 報告

自他ともによりよい生き方を求め、実践する児童を育てる道徳教育はどうあるべきか

白山市立美川小学校 教頭 勘村 圭一

日時 令和6年11月1日（金）

場所 郡上市立八幡小学校、日本まん真ん中センター他

日程 公開授業

テーマ別分科会

全体会 大会主題発表

記念講演 講師 岐阜聖徳学園大学
河合宣昌 教授

公開授業（参加した授業）

▼郡上市立八幡小学校 6年2組

- ・授業者 武藤篤哉 教諭
- ・主題名 公正な態度で
- ・内容項目 C公正、公平、社会正義
- ・教材名 「森川君のうわさ」

▼授業の感想

特に印象に残ったことは、自己を見つめる時間を大切にしてタイムマネジメントされている点である。導入と展開前段までを30分で終了させ、振り返りの時間を充分に取っている。また、その観点は「これまでの自分の生活を振りかえる」とことで、過去の自分と向き合っている。過去を振り返ることで言語化も容易になり、何より「押しつけ道徳」や「決意表明道徳」にならない側面がある。

児童数は20人余りで、全体で交流する形式であった。自分の考えをもつ時間を少なくして、授業を進めていた。発問に対しての児童の発言も的



確でアウトプットすることに慣れている印象をうけた。

テーマ別分科会（参加した分科会）

▼第2分科会

【全教育活動の要としての役割を果たす道徳科の指導】

①敦賀市立栗野南小学校 木下三千代 教諭
敦賀市立栗野小学校 小泉 博子 教諭

「自己を見つめ、豊かにかかわり、共によりよく生きる力を育む道徳教育」

②羽島市立正木小学校 大野 翔平 教諭

「自己を見つめ、他者と共に人としてよりよい生き方を求め続ける子の育成」

▼分科会の感想

①②どちらの発表でも、タブレットを利用し、独自のワークシートを活用していた。考えの変化が一目で分ったり、自他の立場の違いを確認できたりと、思考ツールは考え方議論するための土台となっていることを再認識することができた。

②では、議論を活性化させるためには、教師のファシリテーターとしての役割が重要で、問い合わせの工夫が価値理解や他者理解を深める、との話があった。

記念講演 河合宣昌 教授

「道徳科の授業参観から課題を考え解決する」
学生からとったデータを基に話されていた。印象に残ったことは、自己を見つめる時は、過去の自分と向き合うことで素直な振り返りができるということである。

全小道・全中道 研究大会及び理事会報告

1. 全国小学校道徳教育研究会

- (1) 第37回中部地区小学校道徳教育研究大会（岐阜大会）及び理事会
〔日 時〕令和6年11月1日（金）
〔場 所〕岐阜県郡上市立八幡小学校・郡上市総合文化センター
日本まん真ん中センター
〔内容等〕公開授業後、6つの分科会が開催された。昼食後、全体会と記念講演があった。記念講演の講師は、岐阜聖徳学園大学教授の河合宣昌氏、全体会では、石川県は次回の開催県ということで、壇上に上がり挨拶をした。理事会は、岐阜、愛知、静岡、福井、石川の5県の理事で協議。令和9年度より分科会は4つの減少することを決定。中部地区大会を隔年で行う方がよいという考えが出された。
- (2) 第60回全国小学校道徳教育研究大会（徳島大会）及び理事会
〔日 時〕令和6年11月14日（木）・15日（金）
〔場 所〕徳島市立国府小学校・ザ・グランドパレス、あわぎんホール（ZOOMによるハイブリッド開催）
〔内容等〕公開授業、授業研究分科会、全小道理事会、課題別分科会、開会行事、指導講話、記念講演の順で開催された。文部科学省教科調査官の堀田竜次氏の指導講話、児童文学作家のくすのきしげのり氏の記念講話があった。理事会のみオンラインにて参加した。
- (3) 第47回全国小学校道徳教育研究会研究発表大会及び理事会
〔日 時〕2月14日（金）
〔場 所〕東京都荒川区立尾久小学校
〔内容等〕公開授業後、開会式、4校の研究発表を聞いた。その後に、文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官の堀田竜次氏の講演を聞いた。これから具体的な方向性について考えを深めることができた。理事会では、1年間の活動内容等について審議、可決された。

2. 全日本中学校道徳教育研究会

今年度、石川県が東海北陸ブロックの代表となり、全中道の副会長として参加した。

- (1) 令和6年度 第1回全日本中学校道徳教育研究会 役員・理事会
〔日 時〕令和6年7月6日（土）
〔場 所〕東京都千代田区三番町
上廣倫理財団 UF ホール（ZOOMによるハイブリッド開催）
〔内容等〕令和5年度の事業報告、決算報告、令和6年度の事業計画案、予算案、役員組織案について審議、可決された。また、令和6年度から令和8年度までの全国大会やブロック大会について各ブロック代表からの報告がされた。その際、石川県能登からの参加者として、令和7年能登半島地震に対しての全国校長会をはじめとする、全国の各団体等からの支援に對して謝意を伝えることができた。

その後、国立教育施策研究所教育課程研究センター教育課程調査官、文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官の井上 結香子 氏から「道徳教育の更なる改善・充実を目指して」の講演があった。

(2) 第58回 全日本中学校道徳教育研究大会 神奈川大会 第1日目

[日 時] 令和6年11月21日(木)

[場 所] 神奈川県川崎市立渡田中学校(10学級公開)

川崎市立川崎高等学校附属中学校(9学級公開)

「自他を大切にする心を育む道徳教育の充実
～学びのつながりを感じ、自己の考えを深められる授業づくりを通して～」を大会テーマとして、公開授業、研究協議が行われた。

第58回 全日本中学校道徳教育研究大会 神奈川大会 第2日目

[日 時] 令和6年11月22日(金)

[場 所] 川崎市川崎区富士見 カルッツかわさき

[内容等] 会場を変えて、開会行事の後、5つの分科会に分かれ、それぞれ基調提案が行われ、課題別分科会で協議を行った。

その後、国立教育施策研究所教育課程研究センター教育課程調査官、

文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官の井上 結香子 氏から指導講話が行われた。

(3) 令和6年度 第2回全日本中学校道徳教育研究会 役員・理事会

[日 時] 令和6年11月22日(金)

[場 所] 川崎市川崎区富士見 カルッツかわさき(ZOOMハイブリッド開催)

[内容等] 開会行事に次いで、功労者表彰についての審議、今後の大会予定について報告がされた。令和7年度、東海北陸ブロックが全国大会開催地となっており、岐阜県代表から概要についての説明がされ、東海北陸ブロック代表である石川県からは、大会への参加要請を行った。

(4) 令和6年度 第3回全日本中学校道徳教育研究会 役員・理事会

[日 時] 令和7年3月1日(土)

[場 所] 東京都千代田区三番町

上廣倫理財団UFホール(ZOOMによるハイブリッド開催)

[内容等] 開会行事に次いで、令和6年度の事業報告及び会計報告、令和7年度事業計画及び予算案、令和7年度役員組織、研究大会の今後の予定について報告、審議がされた。今年度の石川県代表は全中道副会長であったため。次年度は参与として参加することとなる。

その後、国立教育施策研究所教育課程研究センター教育課程調査官、

文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官の井上 結香子 氏から「道徳教育の更なる充実を目指して」の講演がされた。

令和6年度 石川県学校道徳教育研究会組織

各都市代表理事

NO	郡市	団体名称	職	氏名	学校名	電話	FAX	郵便番号	住所
1	加賀市	学校教育会道徳部会	校長	奥村 仁美	三谷小学校	0761-72-1771	0761-72-6403	922-0285	加賀市直下町ニノ丙ノ73番地
2	加賀市	学校教育会道徳部会	校長	勝木 一弘	片山津中学校	0761-74-1154	0761-75-8052	922-0411	加賀市潮津町レ1-1
3	小松市	教育研究会	校長	柴田 和美	串小学校	0761-44-2031	0761-44-8161	923-0965	小松市串町乙1番地 1
4	小松市	教育研究会	校長	岩脇 司	芦城中学校	0761-22-2931	0761-22-2930	923-0938	小松市芦田町二丁目69番地
5	能美市郡	学校教育研究会	校長	東森 敬子	福岡小学校	0761-55-0117	0761-55-0162	929-0107	能美市福岡町ハ35番地
6	能美市郡	学校教育研究会	校長	佃 洋子	寺井中学校	0761-55-0160	0761-55-0456	929-0124	能美市浜町ワ60
7	白山市	白学研道徳・人権教育部	校長	清水由美子	美川小学校	076-278-2063	076-278-6091	929-0231	白山市美川和波町ワ229番地
8	白山市	白学研道徳・人権教育部	教頭	泉 洋美	鶴来中学校	076-272-1616	076-272-1617	920-2121	白山市鶴来本町四丁目リ16番地
9	野々市市	教育研究会	教頭	橋本 直美	富陽小学校	076-246-4380	076-294-5449	921-8834	野々市市中林5丁目70番地
10	金沢市	中教研道徳部会	校長	岡田 憲和	港中学校	076-238-5663	076-238-4833	920-8217	金沢市近岡217
11	金沢市	学校教育研究会	校長	高木 布三代	夕日寺小学校	076-252-4471	076-252-8634	920-0822	金沢市東長江町に17番地
12	河北郡市	河北郡学校教育研究会道徳部会	校長	稻垣 優子	七塚小学校	076-285-0022	076-285-1133	929-1171	かほく市木津木61番地1
13	河北郡市	郡教課研道徳部会	教頭	英 重隆	河北台中学校	076-285-0262	076-285-1483	929-1173	かほく市遠塚口47-1
14	羽咋郡	教育研究会道徳部会	校長	坂井 雪絵	相見小学校	0767-28-2017	0767-28-2336	929-1342	羽咋郡宝達志水町麦生ト133番地
15	羽咋市	道徳教育研究会	教頭	奥原 彰一郎	羽咋中学校	0767-22-1135	0767-22-1336	925-0052	羽咋市中央町キ59番地
16	鹿島郡	学校教育研究会	校長	竹原 仁美	鳥屋小学校	0767-74-0019	0767-74-2214	929-1704	中能登町末坂ナ部7番地
17	七尾市	道徳教育研究会	校長	山原 真吾	七尾中学校	0767-53-7705	0767-53-7706	926-0816	七尾市藤橋町辰部52番地1
18	七尾市	道徳教育研究会	教頭	中村 教子	東湊小学校	0767-52-3149	0767-52-1200	926-0011	七尾市佐味町10部4番地
19	鳳珠郡	郡学教研道徳部会	校長	岡本 智子	松波中学校	0768-72-0004	0768-72-2059	927-0602	鳳珠郡能登町字松波16字26番地
20	輪島市	輪島市学校教育研究会道徳部会	校長	井上 千佳	町野小学校	0768-32-0008	0768-32-8005	928-0215	輪島市町野町粟蔵川原田42番地
21	輪島市	輪島市学校教育研究会道徳部会	教頭	三益 邦子	東陽中学校	0768-32-0834	0768-32-0836	928-0215	輪島市町野町粟蔵川原田33
22	珠洲市	道徳教育研究部会	校長	四十住 基子	飯田小学校	0768-82-0044	同左	927-1214	珠洲市飯田町19部61番地

令和6年度 石川県学校道徳教育研究会役員

役 職	氏 名		郡 市 名	学校名	電 話	郵便番号	住 所	
会 長(全小道理事)	柴田 和美	校長	小松市	串小学校	0761-44-2031	923-0965	小松市串町乙1番地 1	
副会長(加賀)	佃 洋子	校長	能美市郡	寺井中学校	0761-55-0160	929-0124	能美市浜町ワ60	
副会長(能登)(全中道理事)	山原 真吾	校長	七尾市	七尾中学校	0767-53-7705	926-0816	七尾市藤橋町辰部52番地1	
副会長(金沢)	高木 布三代	校長	金沢市	夕日寺小学校	076-252-4471	920-0822	金沢市東長江町に17番地	
会計監査	岡田 憲和	校長	金沢市	港中学校	076-238-5663	920-8217	金沢市近岡217	
	橋本 直美	教頭	野々市市	富陽小学校	076-246-4380	921-8834	野々市市中林5丁目70番地	
事務局 (幹事)	事務局長(幹事長)	前田 知美	指導教諭	野々市市	野々市小学校	076-248-0084	921-8815	野々市市本町5-3-1
	事務次長(中学校)	泉 洋美	教頭	白山市	鶴来中学校	076-272-1616	920-2121	白山市鶴来本町4丁目リード16
	事務次長(小学校)	坂井 会次郎	教諭	金沢市	西南部小学校	076-240-2501	921-8063	金沢市八日市出町304番地
	事務次長(集録)	北野 美紀	教諭	金沢市	米丸小学校	076-291-1361	921-8016	金沢市東力町二155番地
	会 計	星野 あゆみ	教諭	金沢市	南小立野小学校	076-261-9414	920-0953	金沢市涌波2-5-1
	局員(案内発送)	渡瀬 奈々	教諭	金沢市	明成小学校	076-267-0564	920-0845	金沢市瓢箪町5-48
	局員(会報)	田中 彩	教諭	金沢市	諸江町小学校	076-231-7389	920-0022	金沢市北安江2-25-1
	局員(記録)	佐藤 哲	主幹教諭	金沢市	緑小学校	076-249-0100	920-0373	金沢市みどり1丁目166

事務局は幹事を含むものとする